

時事経済情報 No. 85

2022年5月23日

福井県立大学客員教授

丹羽連絡事務所チーフエコノミスト

中島 精也

目次

- I 米国経済
- II 欧州経済
- III 中国経済
- IV 日本経済
- V マーケット動向



I 米国經濟

1. Fedは連続利上げと量的縮小の開始を決定

①5月3～4日の米連邦公開市場委員会 (FOMC) はFF金利を前回の0.25%利上げに続き、一気に0.5%引き上げてレンジを0.75～1.0%とした。

②また、6月1日よりバランスシートの縮小も開始することも決めた。6～8月に満期が来た国債のうち元本分300億ドル/月を再投資せず、9月以降は600億ドル/月を再投資しない。満期が来たエージェンシー債やMBS(住宅ローン担保証券)は6～8月は175億ドル/月、9月以降は350億ドル/月を再投資しない。

③声明文によれば、1～3月期はマイナス成長だったが、消費、投資が強く、雇用が堅調、失業率も低下と景気に強気の見方を維持している。一方で、コロナ、エネルギー価格の高騰、広範囲にわたる価格圧力に関連する需給不均衡を反映してインフレが加速しており、更にウクライナ戦争の不確実性や中国の都市封鎖によ

るサプライチェーン問題の悪化などインフレリスクには十分に注意すべきと述べている。

④パウエル議長は今回0.75%利上げの議論は無かったとしつつも、「景気と金融市場の環境が我々の予想通りに進めば、次の2回のFOMC会合 (the next couple of meetings) で0.5%ずつの利上げを検討すべきだというのが我々の大方の見方だ」と利上げの継続を明言している。



2. 米GDP1～3月期は在庫と輸出減でマイナス成長

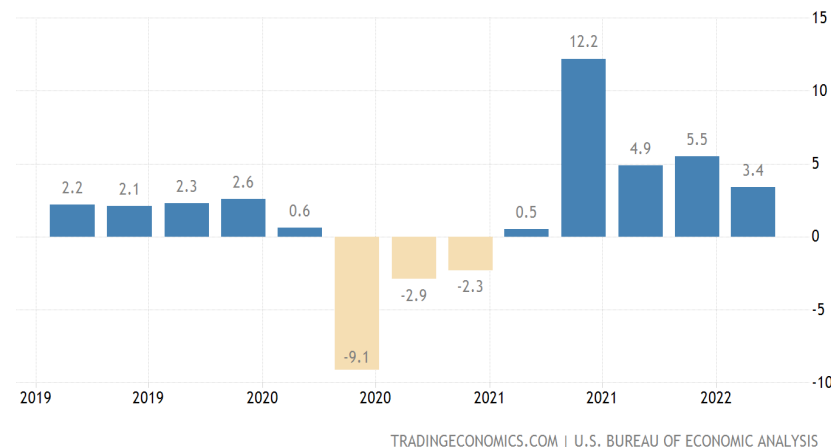
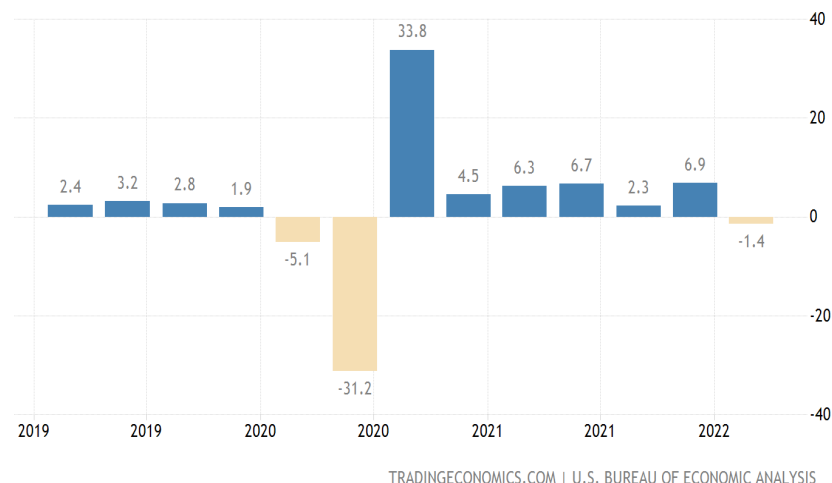
①1～3月期の実質GDPは前期比▲1.4%(前期比年率、右上図)と7四半期ぶりのマイナス成長。前期に比べて在庫投資と輸出の落ち込みが大きかったが、国内需要の強さを示す国内最終需要の伸びは+2.6%と前期の+1.7%を上回っており、米景気の腰は強い。前年比は+3.4%(右下図)。

②1～3月期の内需の寄与度は+1.78%、外需の寄与度は▲3.20%。

③個人消費の伸びは+2.7%(モノ▲0.1%、サービス+4.3%)で前期の+2.5%を上回り、寄与度は+1.83%。設備投資は+9.2%で前期の+2.9%を大きく上回り、寄与度は+1.17%。住宅投資の伸びは+2.1%、政府支出は▲2.7%(連邦▲5.9%、地方▲0.8%)で寄与度は▲0.48%。

④輸出の伸びは▲5.9%、輸入は+17.7%。

⑤名目GDPの伸びは+6.5%、GDP物価指数は+8.0%。インフレ加速が名目GDPを膨らませている。



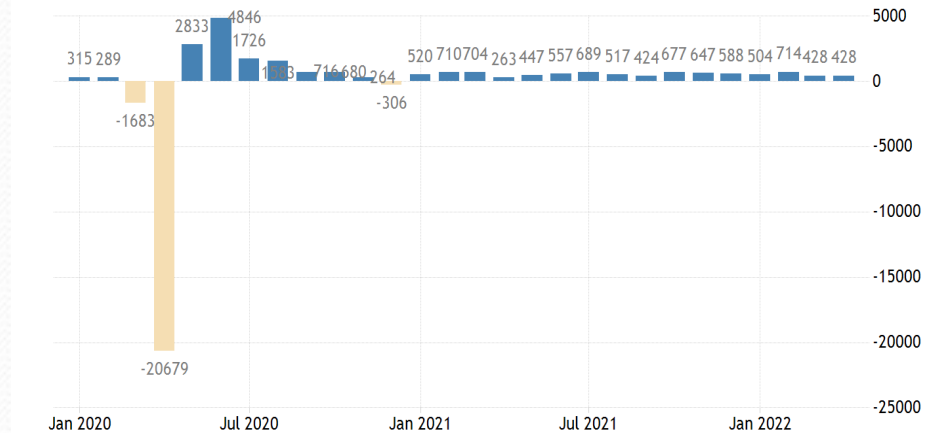
3. 米雇用は増加続く、賃金の伸びも高い

①4月の雇用者数の前月比(右上図)は+42.8万人の増加と事前予想の+38万人を上回った。コロナ前のピーク20年2月の水準まで、あと+119万人増加すれば回復する。

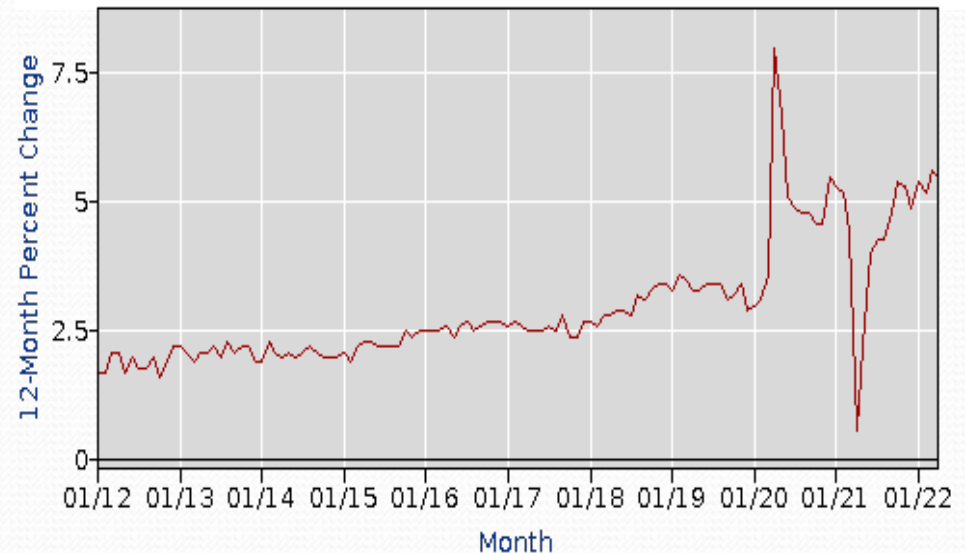
②業種別は全般に増加しているが、レジャー接待+7.8万人、製造業+5.5万人、輸送・倉庫業+5.2万人。

③失業率は3.6%で前月と変わらず。労働参加率は62.2%と▲0.2ポイント低下。

④時間当たり賃金は前月比+10セント上昇して31.85ドルに、前年比(右下図)は+5.5%と前月より▲0.1ポイント低い。



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. BUREAU OF LABOR STATISTICS

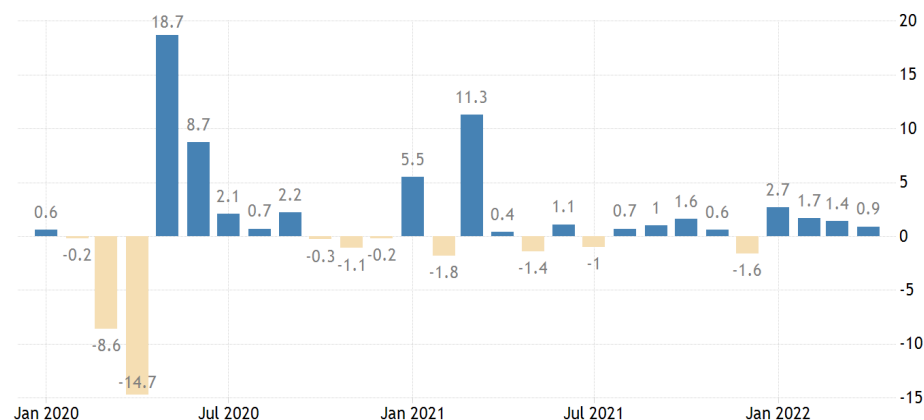


4. 米国の小売売上高は堅調な伸び

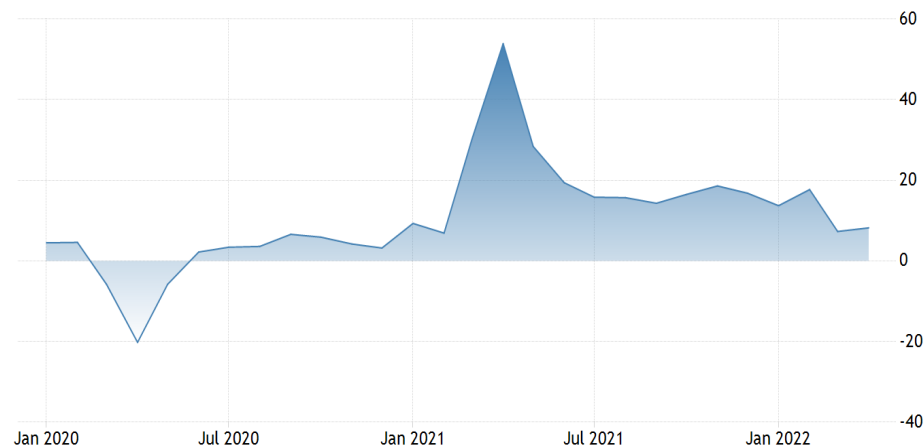
①4月の小売売上高は前月比(右上図)

が+0.9%、前年比(右下図)は+8.2%。

②業種	前月比	前年比
自動車	+2.2%、	▲1.7%
家具	+0.7%、	+0.8%
電気製品	+1.0%、	▲5.2%
建設資材園芸用品	▲0.1%、	+1.7%
食料品店	▲0.2%、	+7.1%
健康ケア	+0.7%、	+2.1%
ガソリンスタンド	▲2.7%、	+36.9%
衣服アクセサリ	+0.8%、	+8.0%
スポーツ用品・趣味		
・書籍・音楽	▲0.5%、	▲5.4%
デパート	+1.1%、	+2.9%
無店舗販売	+2.1%、	+12.7%
飲食業	+2.0%、	+19.8%
合計	+0.9%、	+8.2%



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU

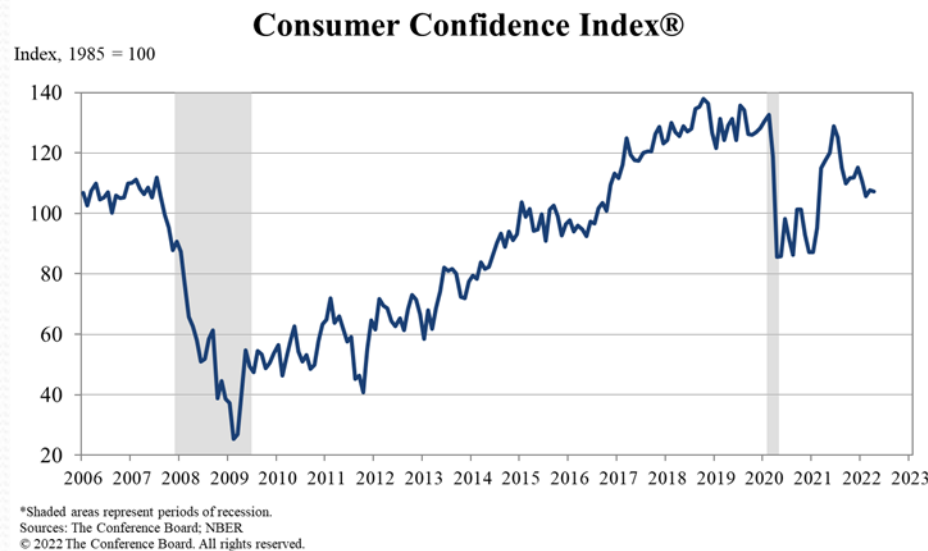
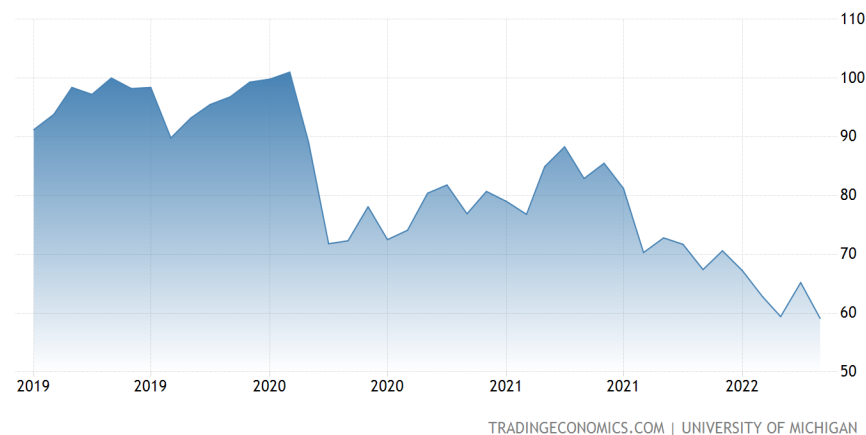


TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU

5. 米消費者信頼感指数は下降トレンド

①5月のミシガン大学消費者信頼感指数(速報、右上図)は、59.1で前月比▲6.1ポイントの低下。現状指数は69.4から63.6に低下、期待指数は62.5から56.3に低下。

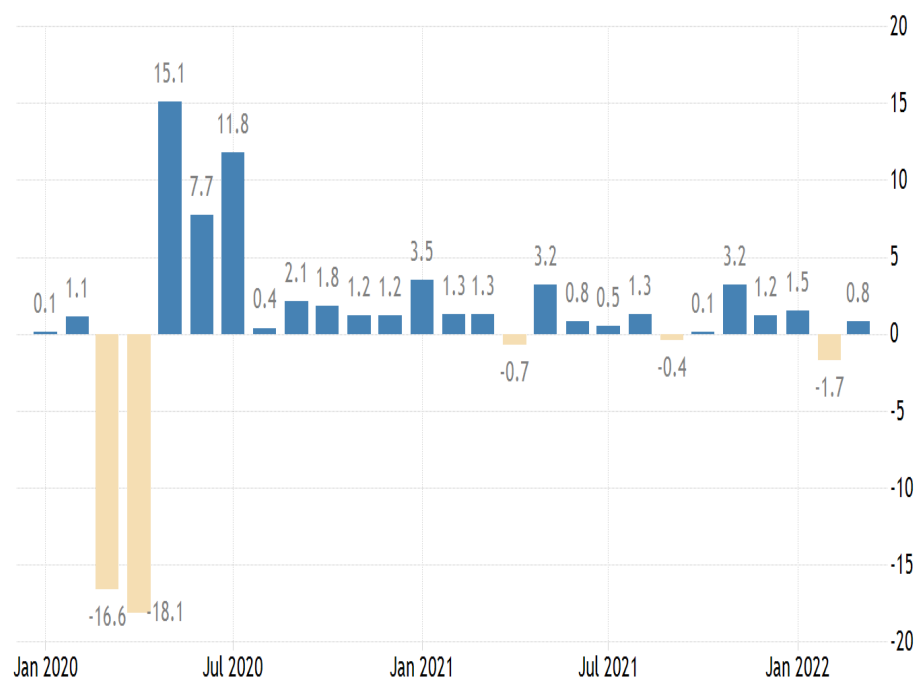
②4月コンファレンスボード消費者信頼感指数(右下図)は107.3で前月比▲0.3ポイントの低下。現状指数は3月153.8→4月152.6に低下、期待指数は3月76.7→4月77.2に上昇。



6. 米耐久財新規受注はプラスの伸びに復帰

①3月の耐久財新規受注(速報)は前月比(右図)+0.8%の上昇、前年比は+9.9%。輸送機器を除く耐久財新規受注は前月比+1.1%、前年比+9.1%、国防を除く耐久財新規受注は前月比+1.2%、前年比+11.3%

②民間設備投資の先行指標となる非国防資本財から航空機を除いたコア資本財受注は前月比+1.0%、前年比+9.7%。

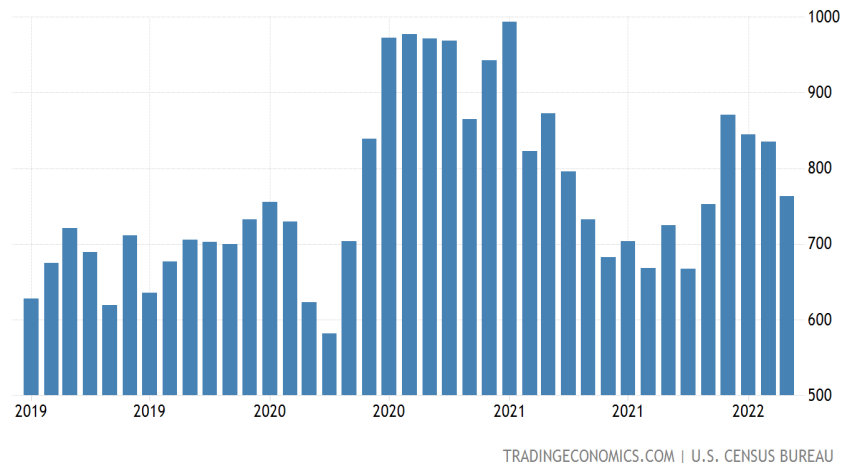


7. 米住宅着工の上昇トレンド続く

①4月の米住宅着工戸数は年率172.4万戸（右上図）、前月比は▲0.2%、前年比は+14.6%。一戸建は前月比▲7.3%、前年比は▲3.7%、集合住宅（5件以上）は前月比+16.8%、前年比は+42.3%。地域別で前月比、前年比で北東部▲23.2%、+16.7%、中西部▲22.0%、+2.2%、南部+10.6%、+18.4%、西部+3.3%、+11.6%。

②2月のケースシラー住宅価格指数（全米）は前月比+1.7%、前年比+19.8%。

③3月の新築住宅販売戸数は年率76.3万戸（右下図）、前月比▲8.6%、前年比▲12.6%と大きく減少。うち、地域別前月比、前年比は北東部▲5.4%、+12.8%、中西部▲8.7%、▲13.8%、南部▲10.2%、▲24.7%、西部▲6.0%、+21.0%。販売在庫比率は6.4ヶ月と前月より+0.8ヶ月上昇。



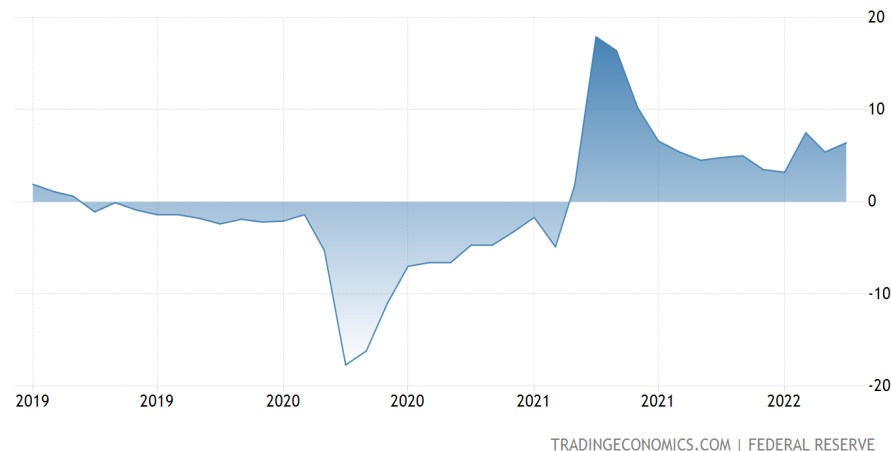
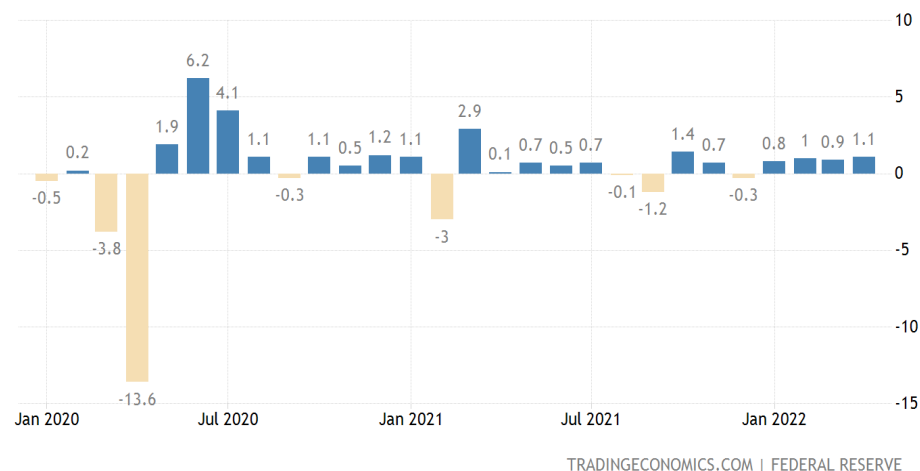
8. 米鉱工業生産は堅調持続、稼働率も上昇

①4月の鉱工業生産指数は前月比+1.1%（右上図）。前年比は+6.4%（右下図）。

②鉱業の前月比は+1.6%、前年比は+8.6%、公益事業の前月比は+2.4%、前年比+7.5%。

③製造業の前月比は+0.8%、前年比は+5.8%。うち自動車及び部品はそれぞれ+3.9%、+17.0%、コンピュータ・電子機器は+0.2%、+5.8%、航空機は+2.2%、+9.6%、金属製品は0.8%、+7.1%、食料・飲料・タバコは+0.9%、+3.0%、化学は+0.3%、+5.1%。

④設備稼働率指数（製造業）は79.2と前月より+0.8ポイント高まる。長期平均78.1を+1.1ポイント上回るなど好調。



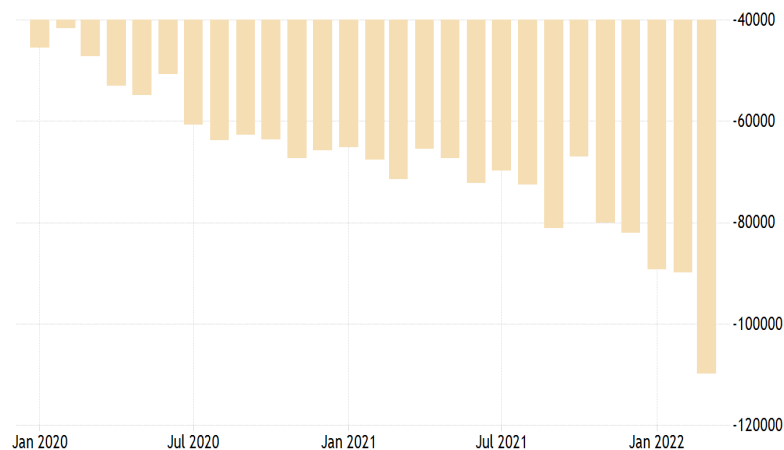
9. 米国の貿易・サービス収支は赤字拡大続く

①3月の貿易・サービス収支(季調済、左下図)は▲1,098億ドルと前月比▲200億ドルの赤字拡大。

②財・サービス輸出(右上図)は前月比+129億ドル増加の2,417億ドル(前年比+17.7%)。前月比で工業用原材料+74億ドル、自動車・部品+10億ドル。

③財・サービス輸入(右下図)は前月比+329億ドルの3,515億ドル(前年比+27.0%)。前月比で消費財+100億ドル、工業用原材料+113億ドル。

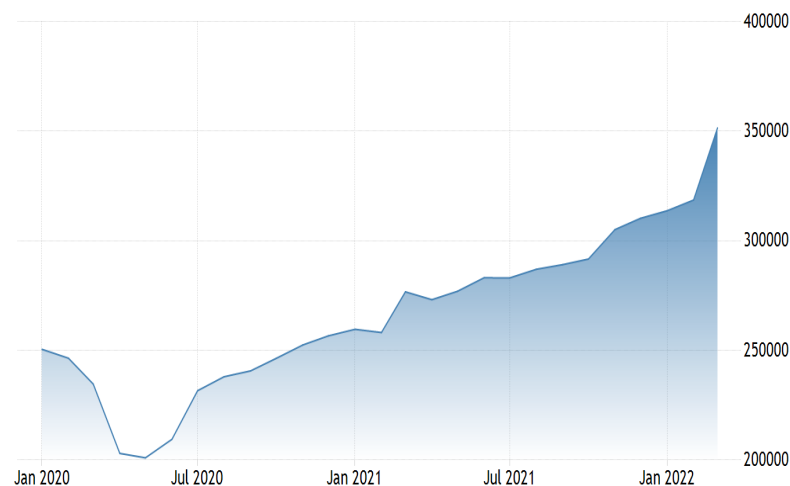
④対中輸出は133.75億ドルで前年比+6.6%、対中輸入は473.74億ドルで前年比+17.8%。



TRADINGECONOMICS.COM | BUREAU OF ECONOMIC ANALYSIS (BEA)



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU



TRADINGECONOMICS.COM | U.S. CENSUS BUREAU

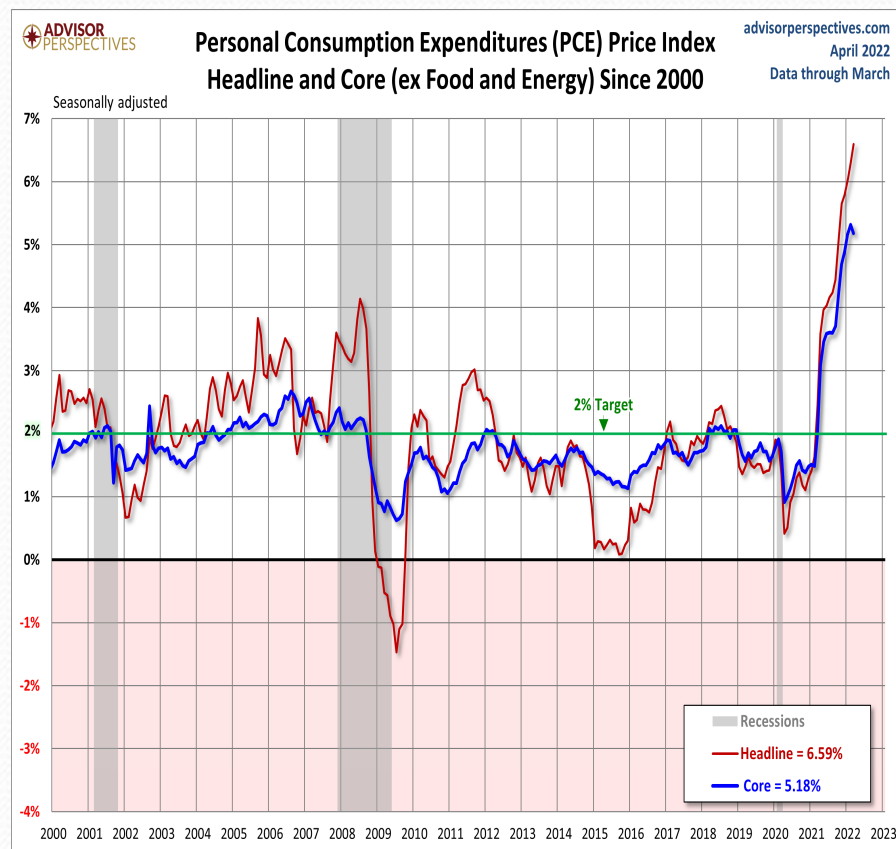
10. 米PCE物価指数の上昇加速が続く

①3月のPCE(個人消費支出)総合物価指数の前年比(右図赤線)は+6.6%と前月より+0.3ポイント伸びが高まる。前月比は+0.9%。

②エネルギーと食料を除くコアPCE物価指数の前年比(右図青線)は+5.2%と前月より▲0.1ポイント伸びが低下。但しFedの物価目標2%を大きく上回る。前月比は+0.3%。

③財価格の前年比+10.6%、前月比は+1.7%、サービス価格の前年比は+4.5%、前月比は+0.4%。エネルギー価格の前年比は+33.9%、前月比は+11.8%。

④期待インフレ率指標(BEI)は5年物で3%前後、10年物で2.5%前後とFedの引き締め強化を受けて低下

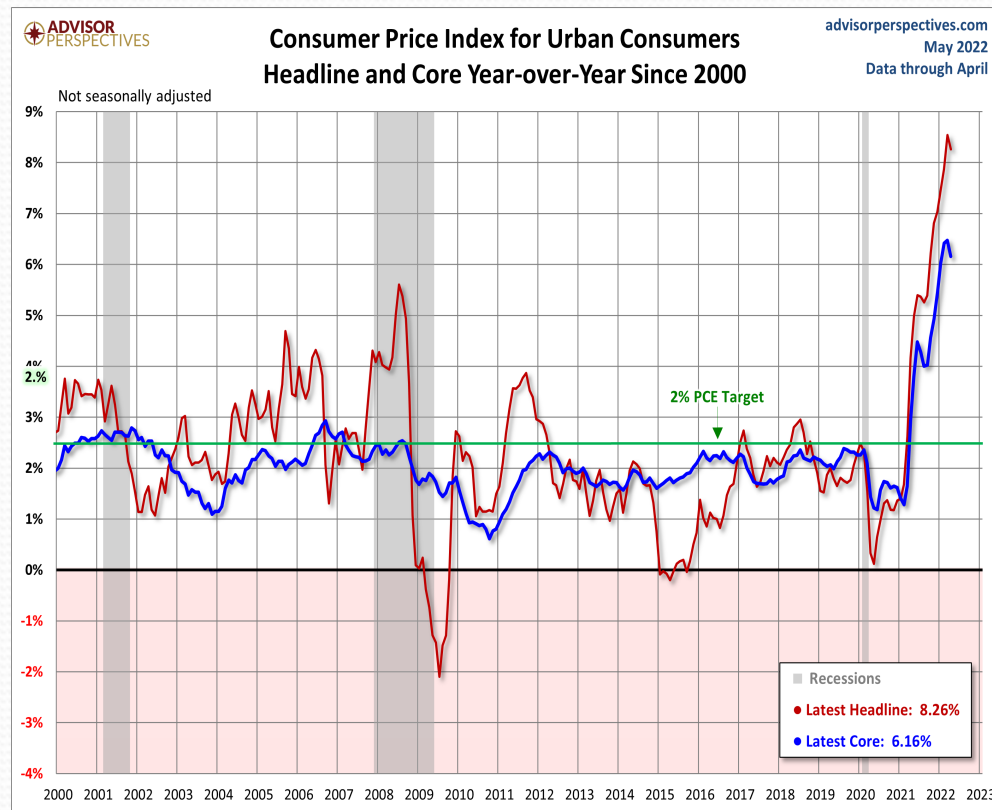


11. 米消費者物価総合の伸びは8%超え続く

①4月のCPI(消費者物価指数)総合の前年比(右図赤線)は8.3%と前月より▲0.2ポイント伸びが低下。前月比は+0.3%。

②エネルギーの前年比は+30.3%(うちガソリン+43.6%、燃料油+80.5%、電気+11.1%、都市ガス+23.8%)、前月比は+11.0%(うちガソリンは+18.3%、燃料油は+22.3%、電気+11.0%、都市ガス+22.7%)。

③エネルギーと食料を除くコアCPIの前年比(右図青線)は+6.2%と前月の伸びを▲0.3ポイント下回る。前月比は+0.6%。中古車価格の前年比は+22.7%。



12. 2つの米製造業PMI指数は方向が異なる

①米サプライマネジメント協会 (ISM)

4月製造業PMI指数(右図赤線)は前月の57.1から▲1.7ポイント低下して55.4。

項目別前月比では

新規受注▲0.3ポイント

生産▲0.9

雇用▲5.4

供給者納入+1.8

在庫▲3.9

顧客在庫+3.0

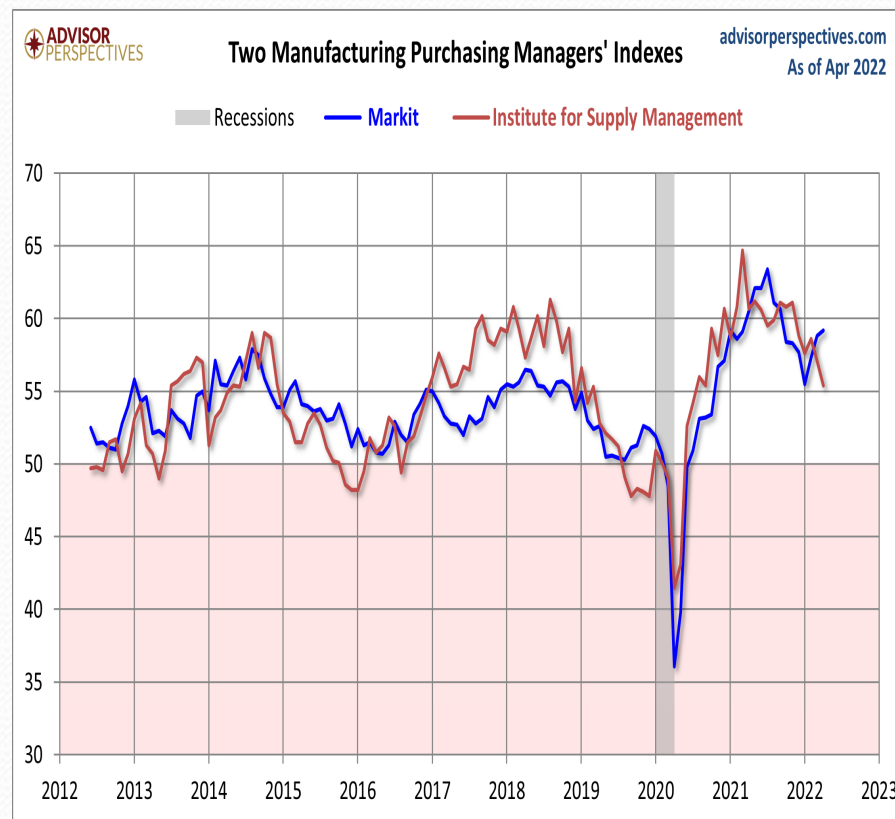
価格▲2.5

受注残▲4.0

新規輸出受注▲0.5

輸入▲0.4

②4月Markit製造業PMI指数(右図青線)は59.2と前月比+0.4ポイントの上昇。

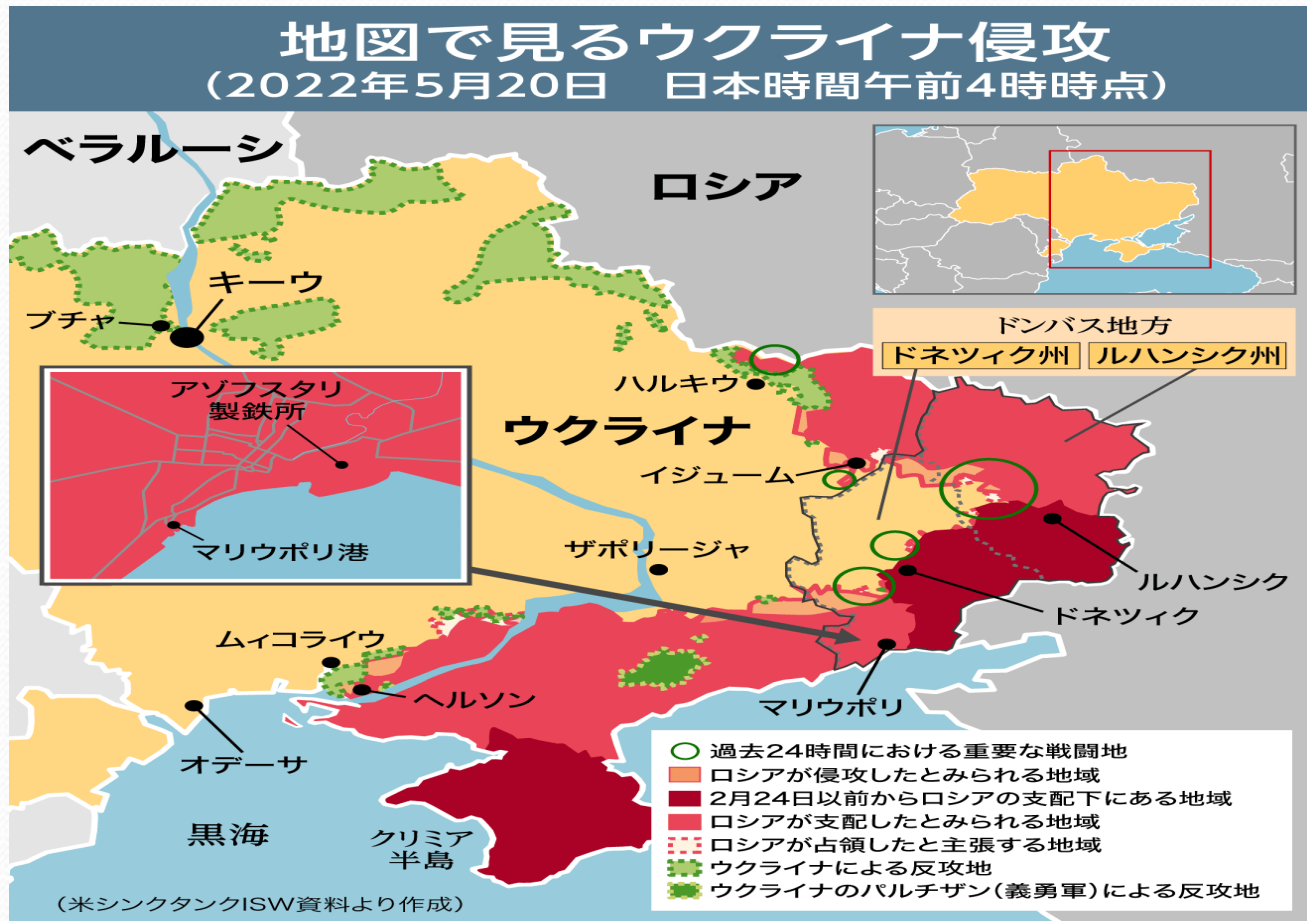




II 欧州經濟

1. ウクライナ戦争は膠着状態が続く

ロシア軍はキーウ、ハルキウから撤退、ドンバス地方は膠着、南部は支配



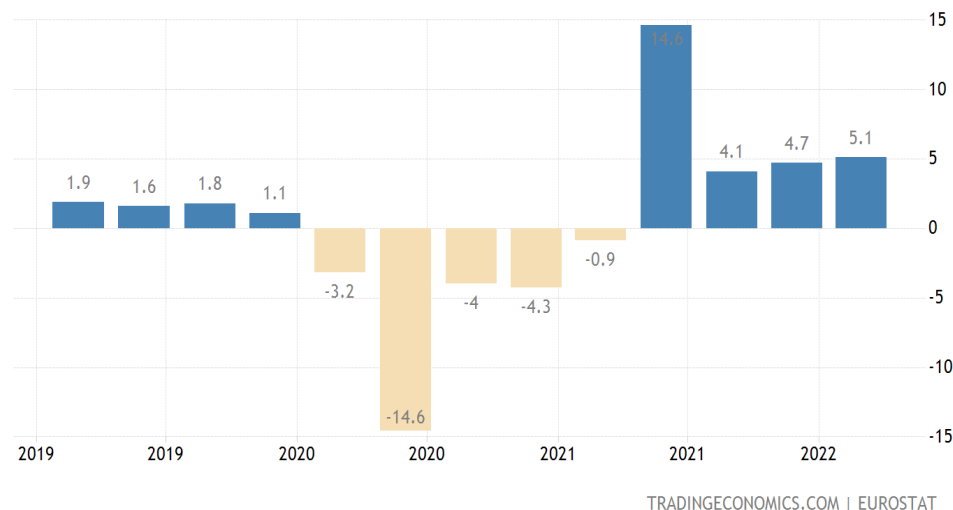
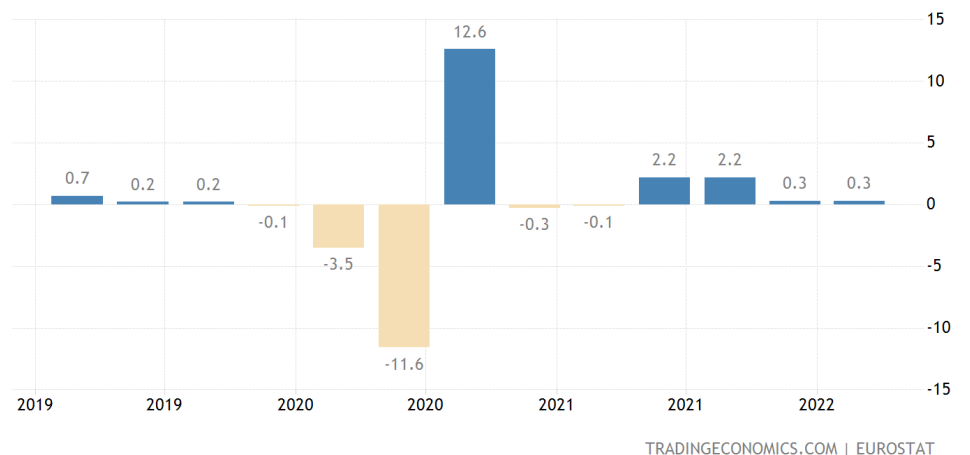
2. ユーロ圏1～3月期GDPは回復続く

①1～3月期のユーロ圏GDP(速報)は前期比(右上図)+0.3%、前年比(右下図)は+5.1%。

②前期比で独+0.2%、仏0.0%、伊▲0.2%、スペイン+0.3%、ポルトガル+2.6%、オーストリア+2.5%、ベルギー+0.3%、オランダ0.0%。

③前年比で独+3.7%、仏+5.3%、伊+5.8%、スペイン+6.4%、ポルトガル+11.9%、オーストリア+8.7%、ベルギー+4.6%、オランダ+6.8%。

④BREXITした英国は前期比+1.0%、前年比+6.5%。

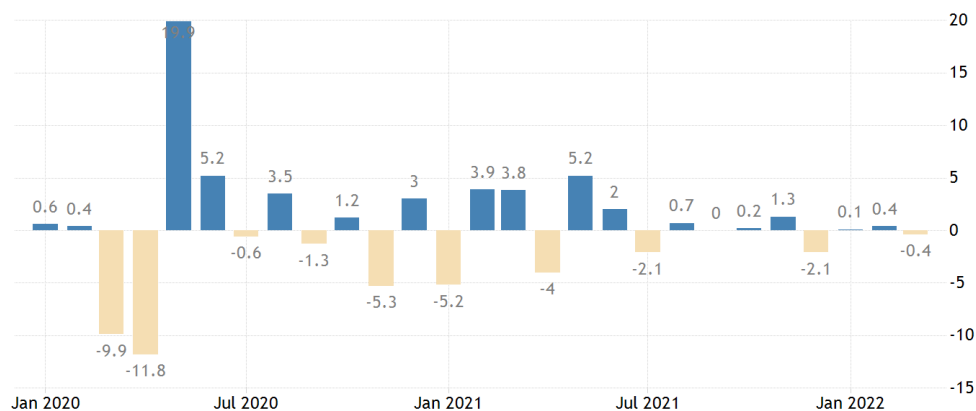


3. ユーロ小売売上高はリスク増で弱含み

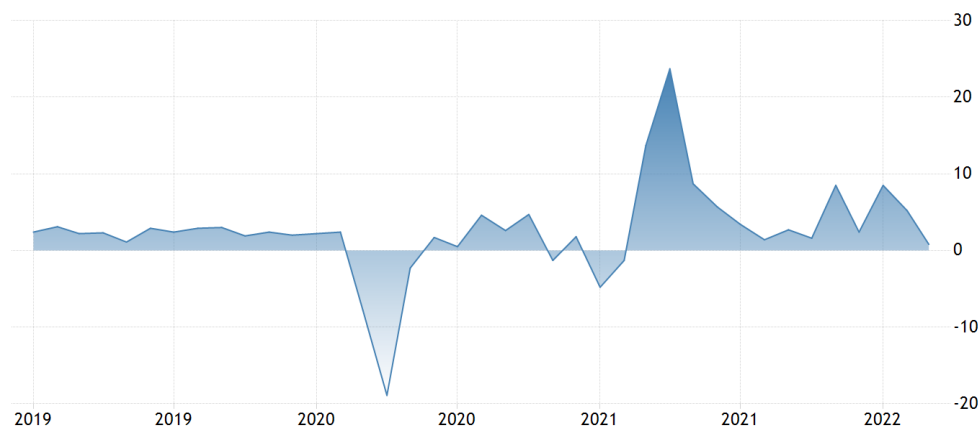
①3月のユーロ圏小売売上高（数量ベース、季調済）は前月比▲0.4%（右上図）、前年比（右下図）は+0.8%。インフレ加速、ウクライナ戦争などのリスク要因が悪影響との見方。

②商品別前月比で食料・飲料・タバコ+0.8%、非食料製品▲1.2%（うち通信販売・インターネット▲4.3%）、自動車燃料▲2.9%。

③商品別前年比では食料・飲料・タバコ▲2.5%、非食料製品+2.8%（うち通信販売・インターネット▲13.2%）、自動車燃料+8.3%。



TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT



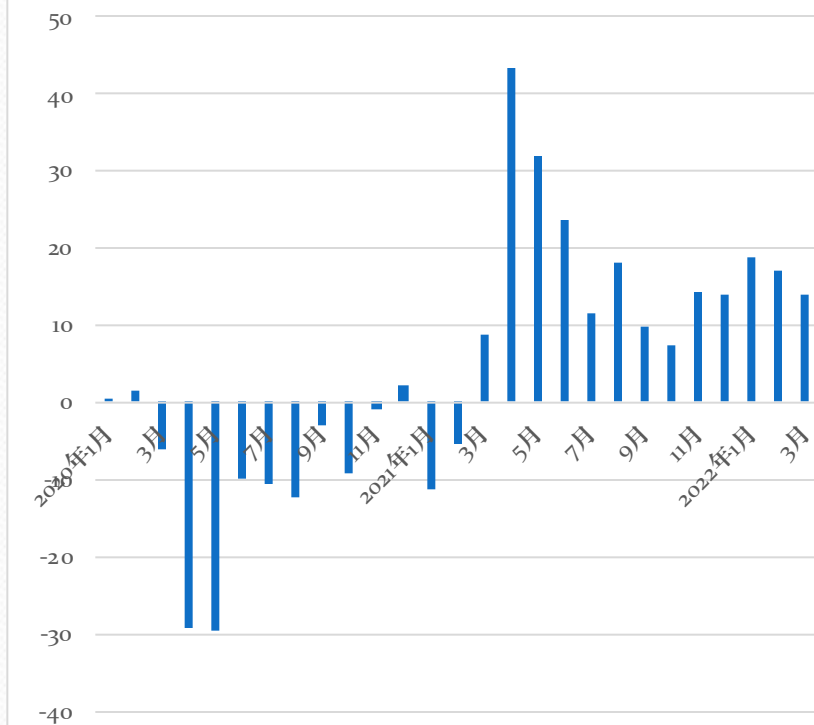
TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

4. ユーロ圏の輸入の伸びが輸出を上回る

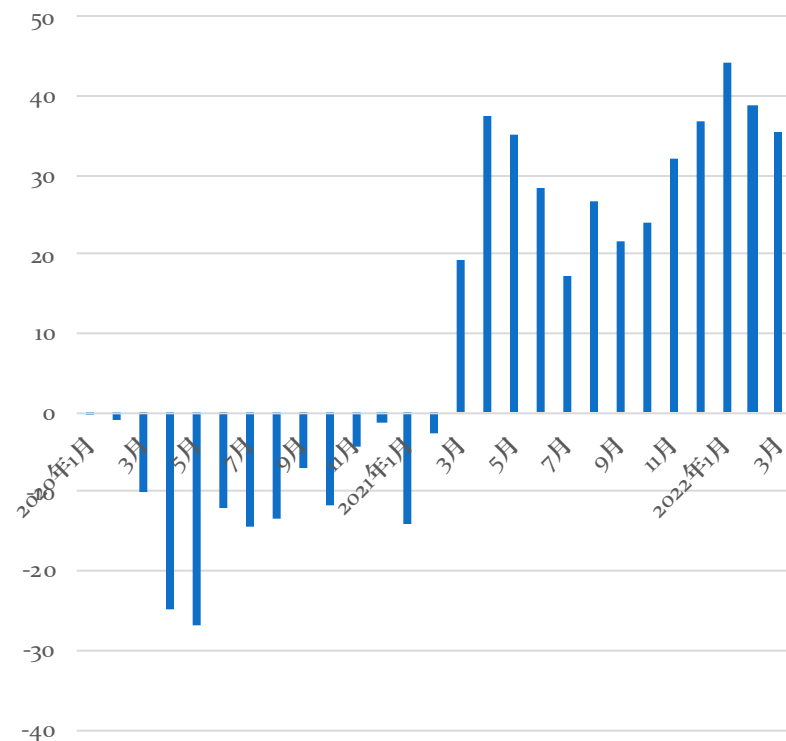
①3月の輸出の伸びは前年比+14.0%

②3月の輸入の伸びは前年比+35.4%

ユーロ圏の輸出の推移(前年比、%)

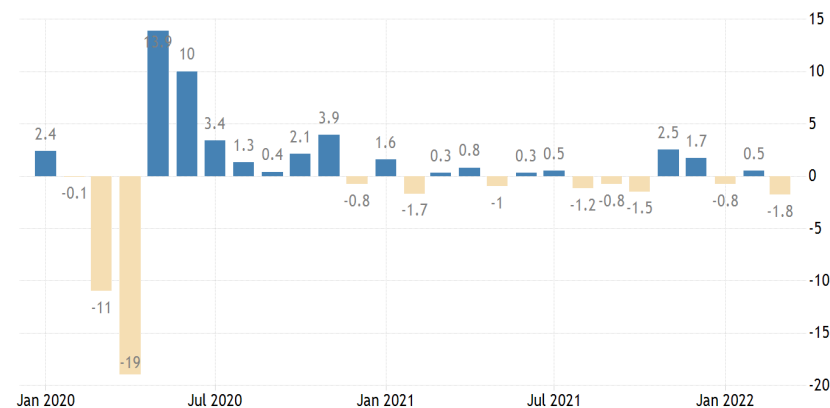


ユーロ圏の輸入の推移(前年比、%)

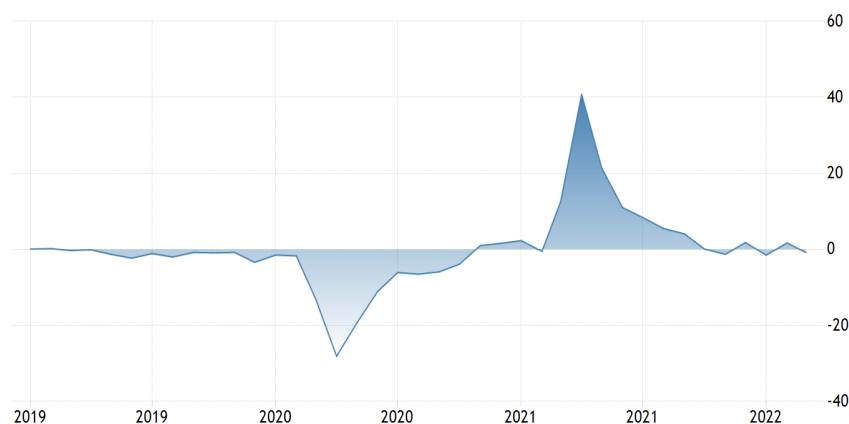


5. ユーロ圏の鉱工業生産は横ばいの推移

- ①3月のユーロ圏鉱工業生産は前月比(右上図)▲1.8%、前年比(右下図)は▲0.8%。
- ②項目別の前月比は中間財▲2.0%、エネルギー▲1.7%、資本財▲2.7%、耐久消費財+0.8%、非耐久消費財▲2.4%。
- ③前年比では中間財▲0.1%、エネルギー▲4.0%、資本財▲2.7%、耐久消費財+6.6%、非耐久消費財+2.8%。
- ④国別の前月比ではドイツ▲5.0%、仏▲0.5%、スペイン▲1.8%、ポルトガル+4.4%、オランダ+0.2%、デンマーク+4.4%、オーストリア▲2.9%。
- ⑤前年比ではドイツ▲4.1%、仏▲0.1%、スペイン▲0.1%、ポルトガル+0.1%、オランダ+0.6%、デンマーク+12.2%、オーストリア+4.9%。



TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT



TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

6. ユーロ圏の失業率は下降トレンド続く

①3月のユーロ圏失業率(右図)は6.8%と前月より▲0.1ポイントの低下。前年同月より▲1.4ポイント低下。

②最低はチェコの2.4%、最高はギリシャの12.6%。

③前年3月との比較では独3.9%→2.9%、仏8.2%→7.4%、伊10.1%→8.3%、オランダ4.6%→3.3%、スペイン15.4%→13.5%、オーストリア6.6%→4.2%、ポルトガル6.6%→5.7%、アイルランド7.7%→5.5%。

④英国の失業率は3.7%と前月比▲0.1ポイント低下(英国統計局)。

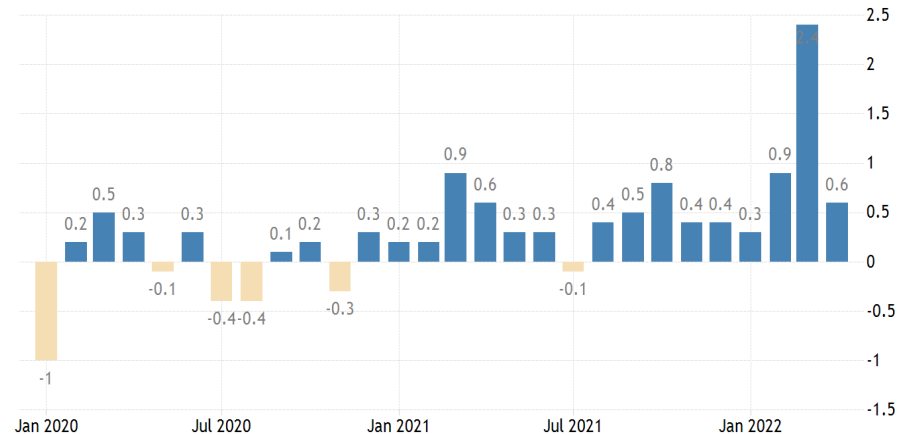


7. ユーロ圏のインフレはウクライナ危機で加速

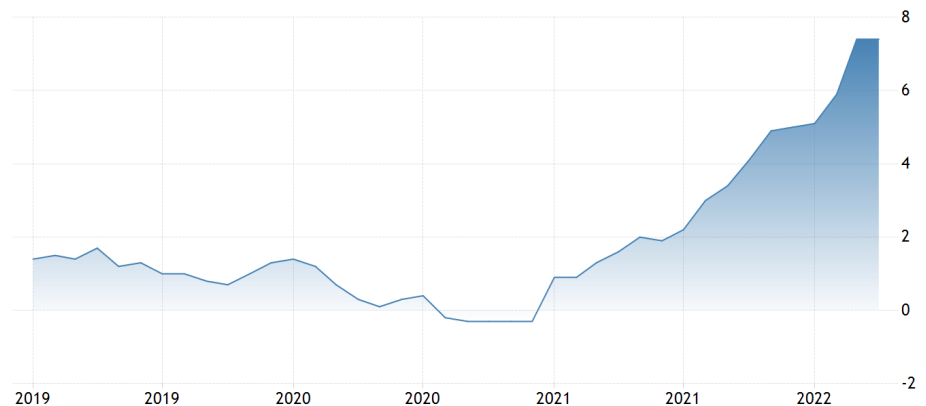
①4月のユーロ圏消費者物価(CPI)の前年比(右下図)は+7.4%、前月比は+0.6%(右上図)

②コアCPI(エネルギー・食料・アルコール・タバコを除く)の前年比は+3.5%、前月比は+1.0%

③項目別の前年比で食料・アルコール・タバコは2月+4.2% →3月+5.0%→4月+6.3%。エネルギーは+32.0%→+44.3%→+37.5%。非エネルギー工業製品は+3.1%→+3.4%→+3.8%。サービスは+2.5%→+2.7%→+3.3%。



TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT



TRADINGECONOMICS.COM | EUROSTAT

8. ユーロ圏製造業PMIは下降傾向

①製造業PMIは3月56.5→4月55.3

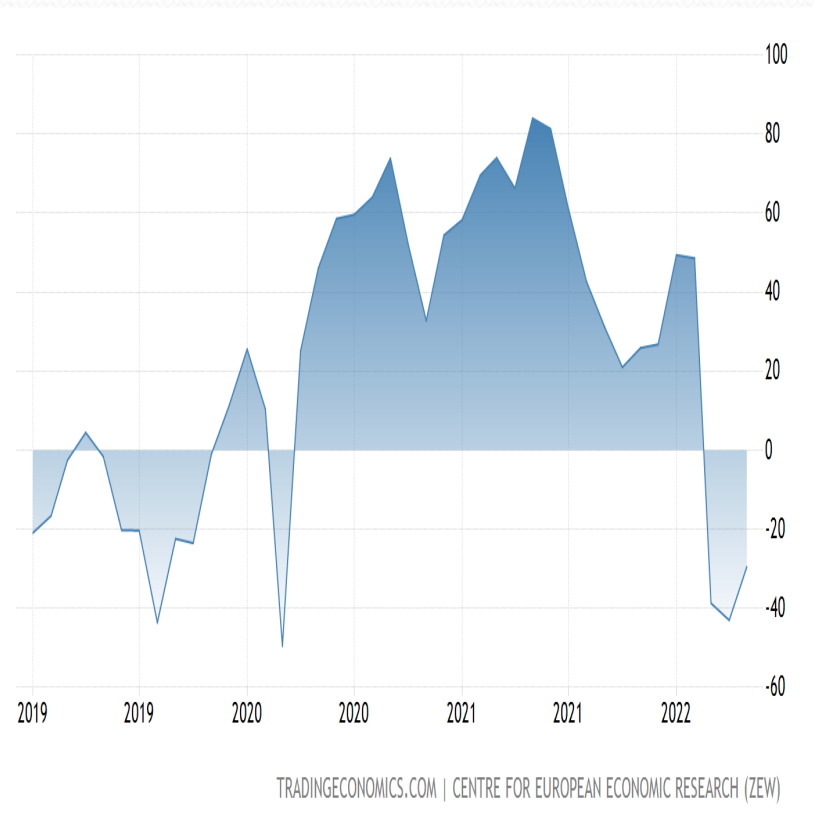
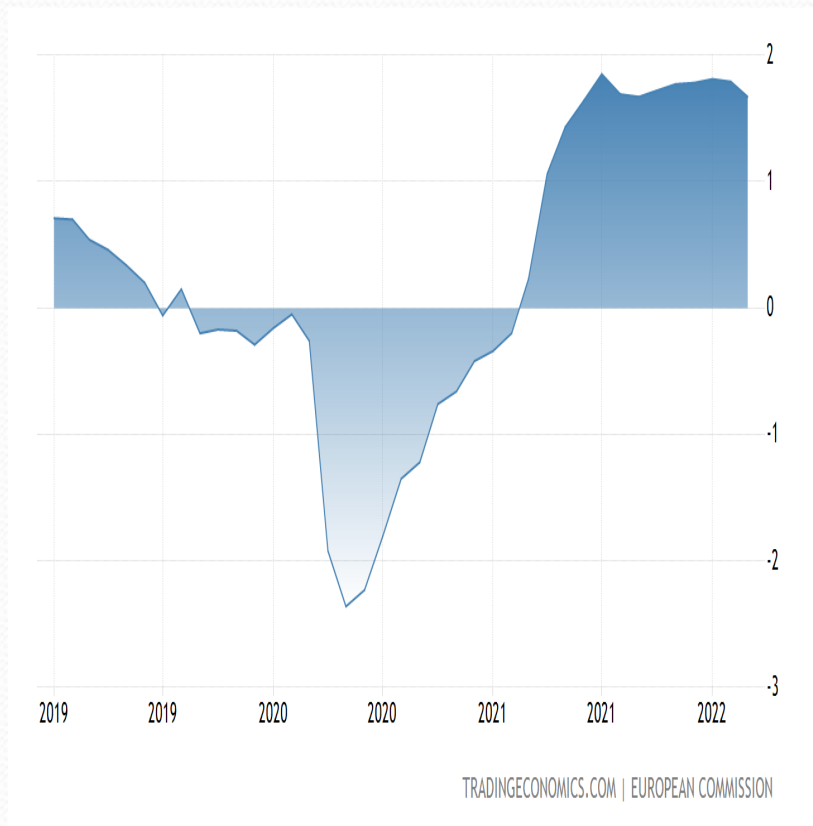
②サービス業PMIは3月55.6→4月57.7



9. ユーロ圏景気指数はやや戻す

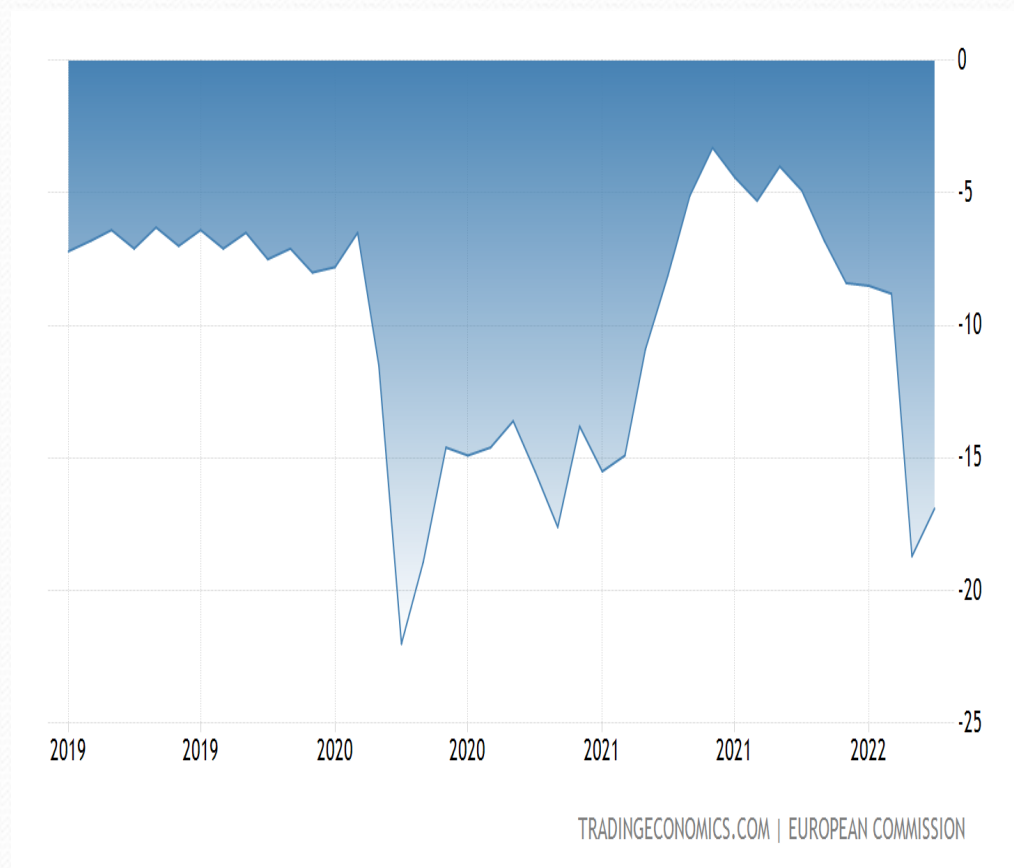
①4月のユーロ圏業況指数(EU委員会)は+1.98で前月比+0.31ポイント上昇。

②5月のユーロ圏ZEW景況感指数は前月比▲13.5ポイント戻して▲29.5。



10. ユーロ圏消費者信頼感指数は低水準

欧州委員会が発表
した5月のユーロ圏
消費者信頼感指数
(右図)は前月より
+0.9ポイント上昇
して▲21.1。

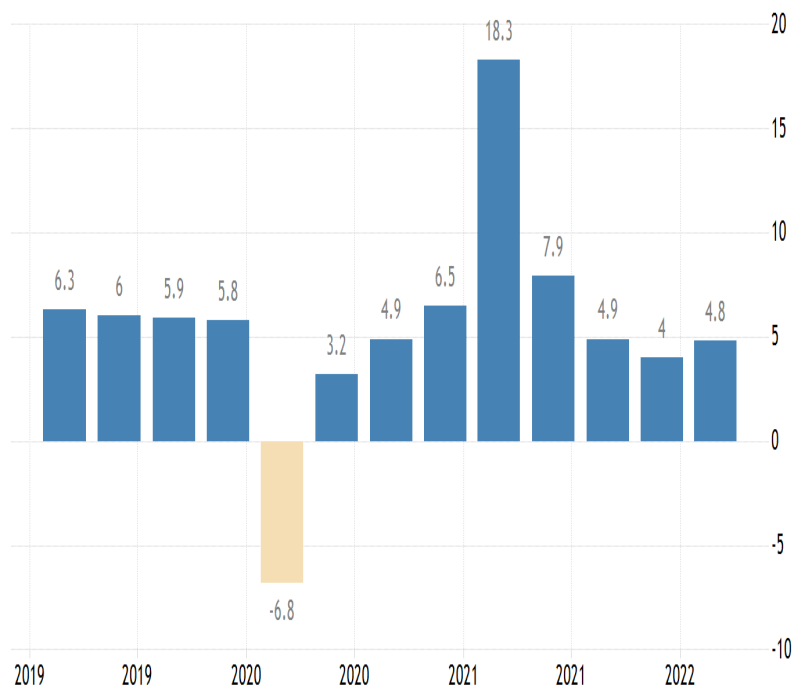




Ⅲ 中国經濟

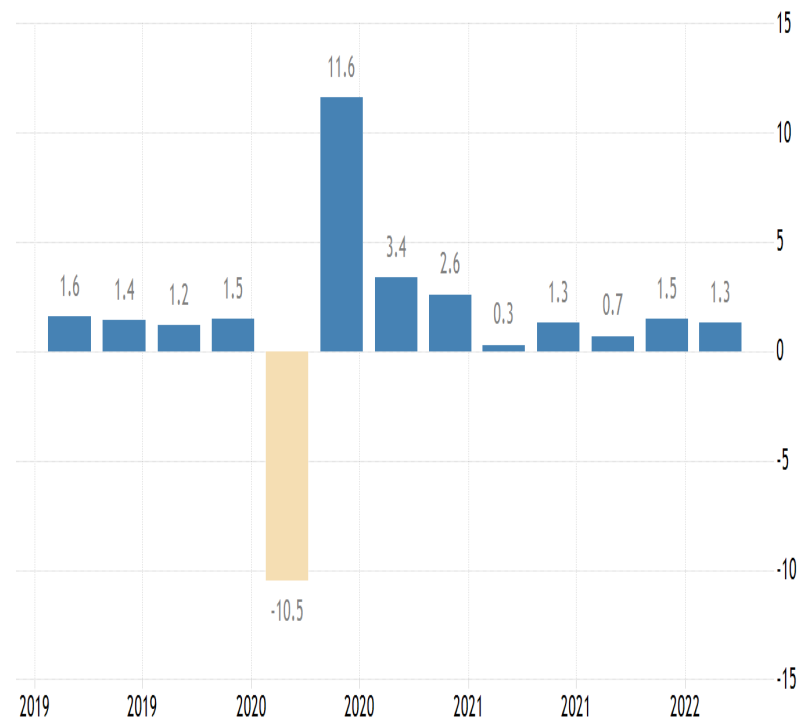
1. 中国の1～3月期GDP前年比はやや戻す

①前年比は+4.8%とやや戻すが、政府目標の5.5%前後を下回る



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

②前期比は+1.3%と緩やかな伸び



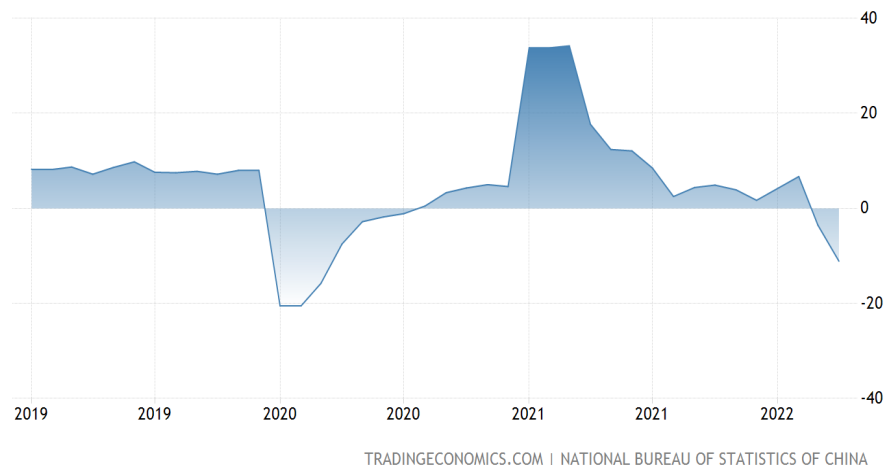
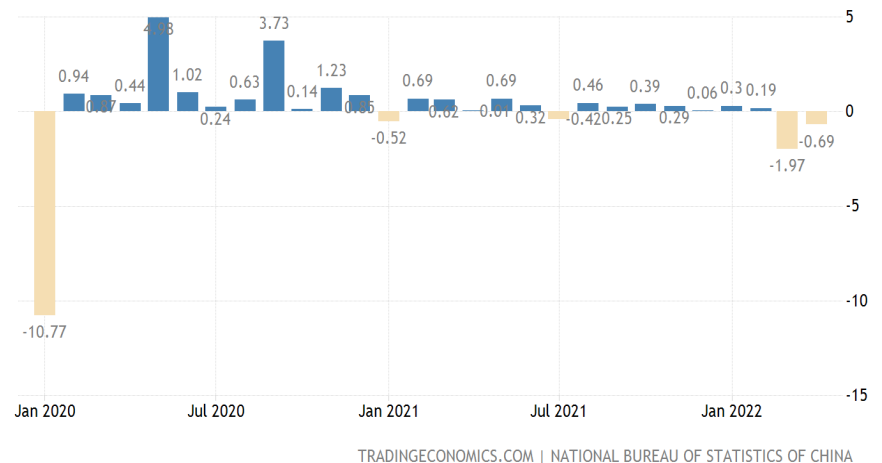
TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

2. 中国の個人消費はロックダウンで減少

①4月の小売売上高の前年比(右下図)はコロナ感染再拡大の影響では▲11.1%とマイナス幅拡大。前月比(右上図)は▲0.69%。

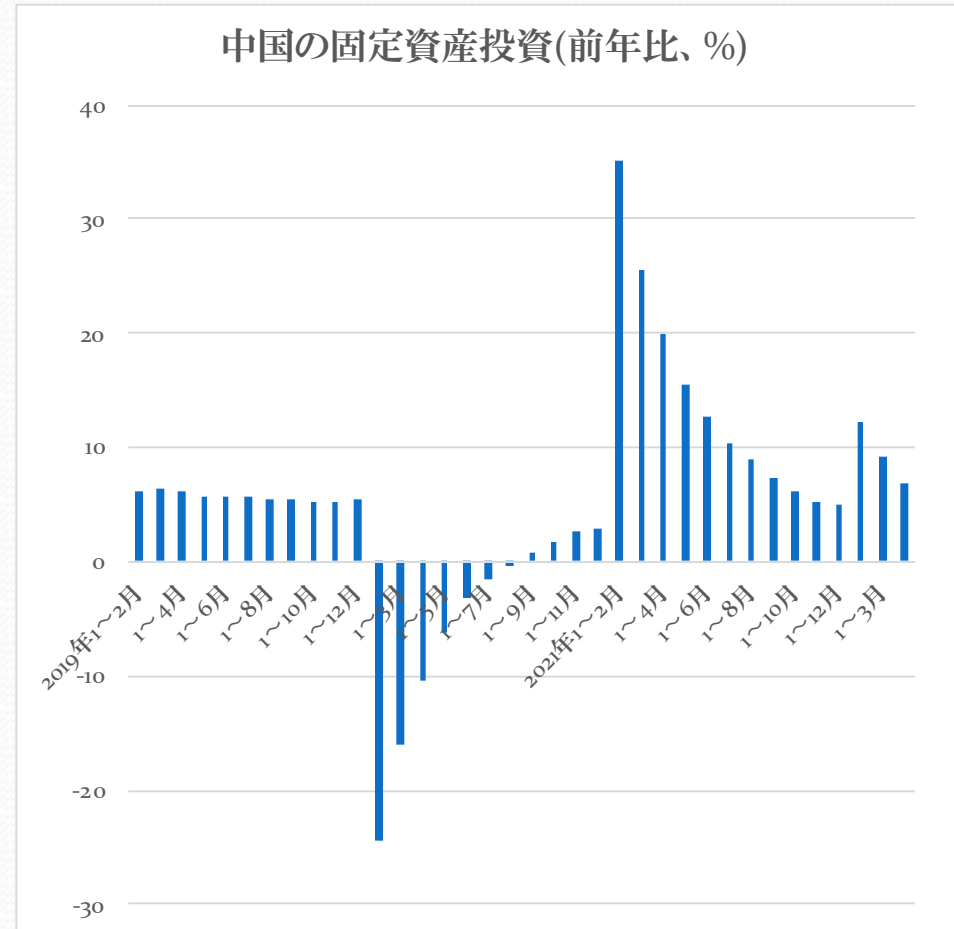
②商品別の前年比は以下の通り

	1~2月	3月	4月
通信機材	+4.8% →	+3.1% →	▲21.8%
自動車	+3.9% →	▲7.5% →	▲31.6%
建設資材	+6.2% →	+0.4% →	▲11.7%
家具	▲6.0% →	▲8.8% →	▲14.0%
家庭電器	+12.7% →	▲4.3% →	▲8.1%
宝飾品	+19.5% →	▲17.9% →	▲26.7%
化粧品	+7.0% →	▲6.3% →	▲22.3%
石油製品	+25.6% →	+10.5% →	+4.7%
衣類	+4.8% →	▲12.7% →	▲22.8%
事務用品	+11.1% →	+9.8% →	▲4.8%
医薬品	+7.5% →	+11.9% →	+7.9%
日用品	+10.7% →	▲0.8% →	▲10.2%
合計	+6.7% →	▲3.5% →	▲11.1%



3. 中国の固定資産投資は減速傾向

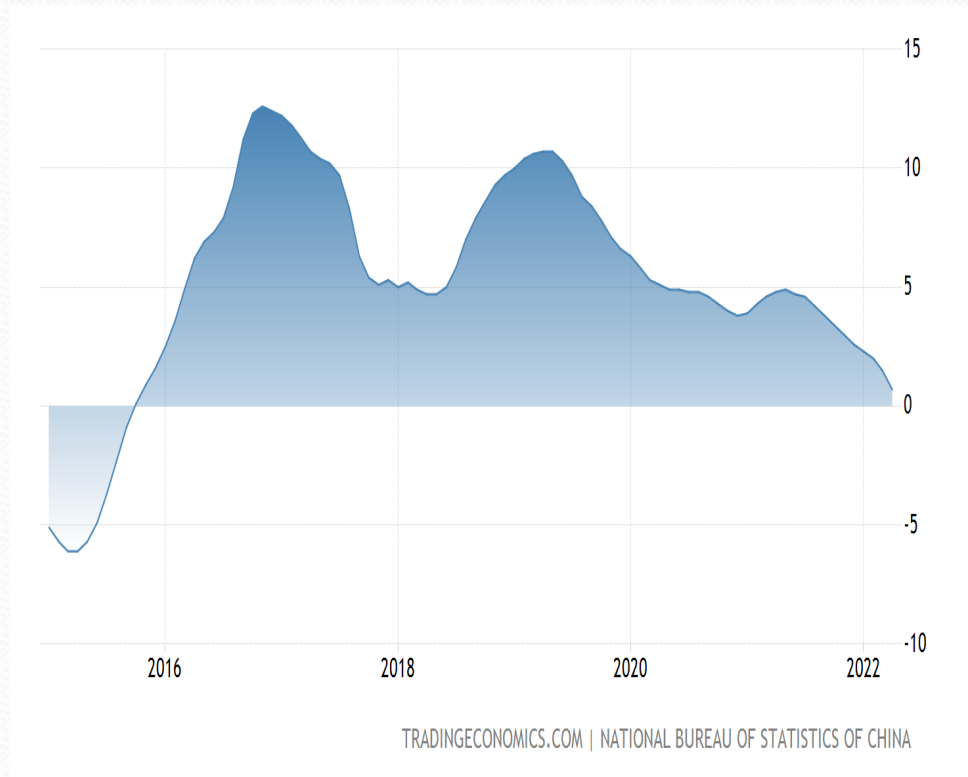
- ①1～4月累計の固定資産投資は前年比+6.8%(右図)と伸びが縮小。
- ②民間投資は+5.3%、公共投資の伸びは+9.1%。
- ③鉱業は+18.8%。製造業+12.2%、うち食品製造+23.2%、紡績業+16.1%、化学+16.2%、医薬+9.9%、非鉄金属+13.0%、金属製品+19.8%、自動車製造+10.4%、鉄道・船舶・航空+11.9%、電気機械+36.6%、コンピュータ・通信+22.1%、電力・ガス・水道+13.0%、鉄道運輸は▲7.0%、道路運輸は+0.4%、水利環境公共施設+7.2%。



4. 中国の住宅価格は減速傾向強まる

①4月の70都市新築住宅価格の伸びは前月の伸びより▲0.8ポイント低下して前年比(右下図)は+0.7%。前月比は▲0.2%。投機抑制を目的とした引き締め政策が影響。前月比で上昇した都市が18都市、下落したのは47都市、横ばいは5都市。

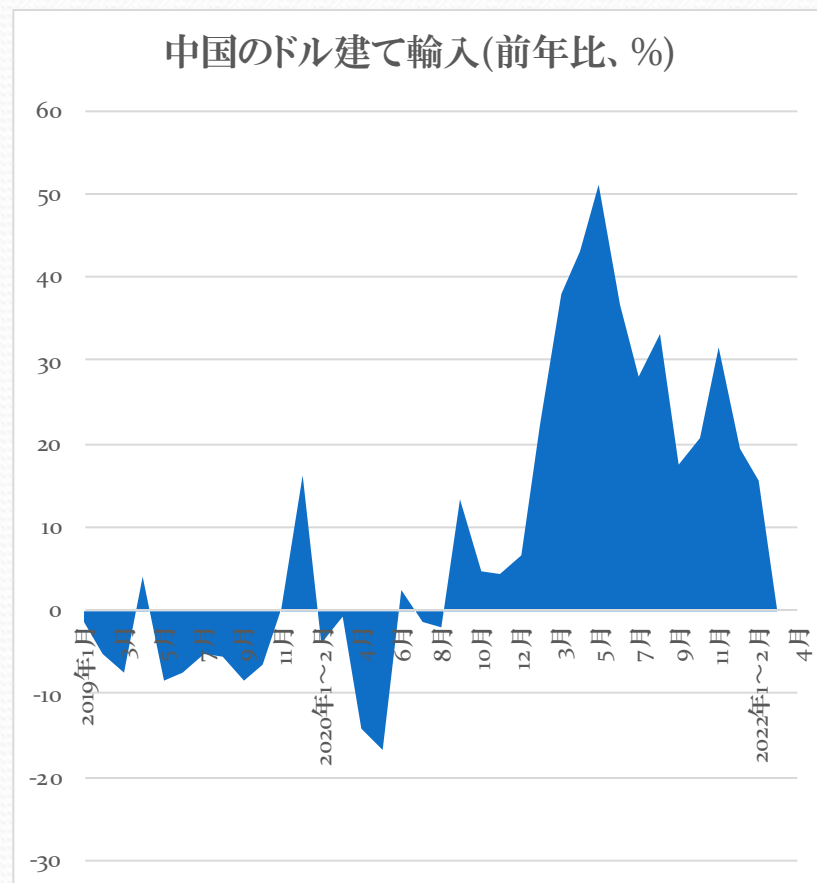
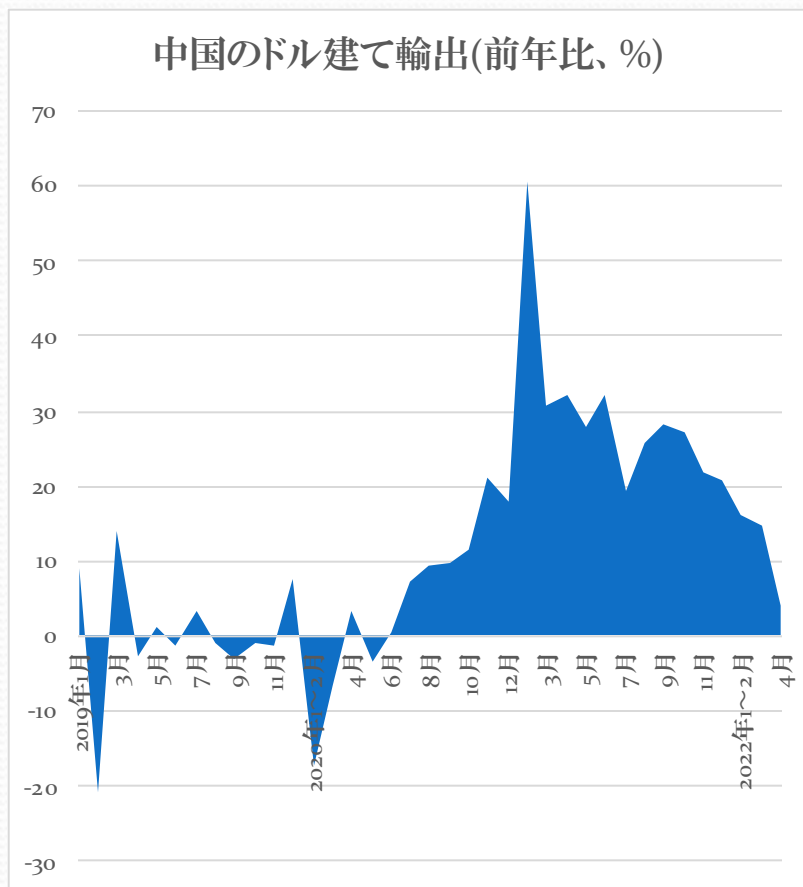
②都市別の住宅価格前年比は
北京+5.8%、大連+1.2%
長春+0.6%、上海+3.8%
南京+2.4%、武漢▲0.3%
広州+2.0%、深圳+3.9%
成都+2.9%、西安+5.2%



5. 中国の貿易はコロナ都市封鎖で打撃

①4月の輸出の伸びは前年比+3.9%に低下。

②4月の輸入の伸びは前年比横ばい。

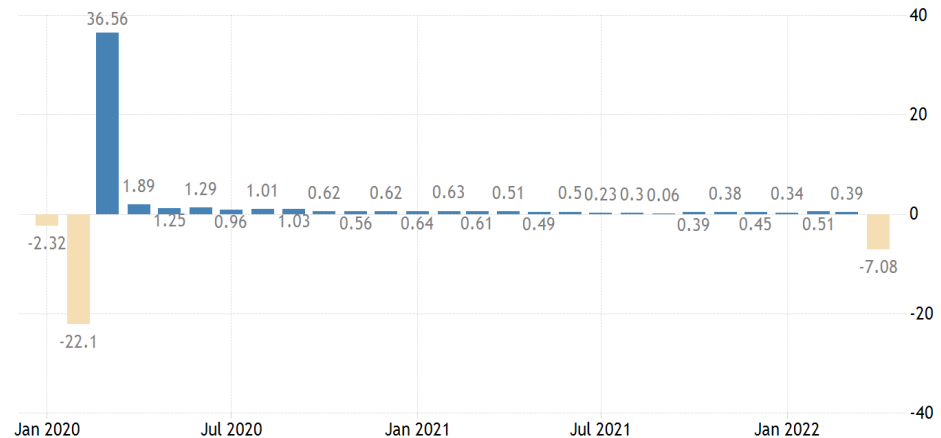


6. 中国の鋁工業生産はコロナ都市封鎖で減少

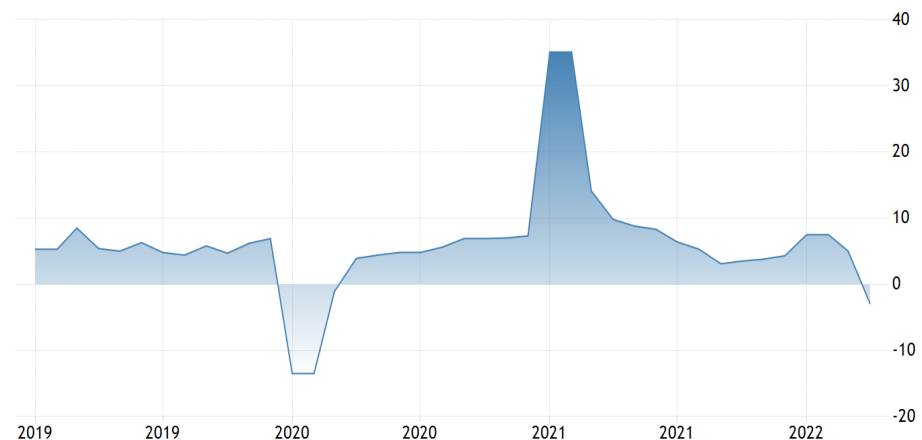
①4月の鋁工業生産の前年比(右下図)は▲2.9%の伸び。前月比(右上図)は▲7.08%。

②製造業の前年比は▲4.6%。電気・ガス・水道は+1.5%、鋁業は+9.5%。

③食品製造は前年比+0.1%、紡績▲6.3%、化学▲0.6%、医薬製造▲3.8%、非金属鋁物製品▲6.2%、鉄鋼▲4.2%、非鉄金属+1.4%、金属製品▲6.6%、自動車▲31.8%、鉄道・船舶・航空機▲6.0%、電気機械+1.6%、コンピュータ・通信+4.9%。



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

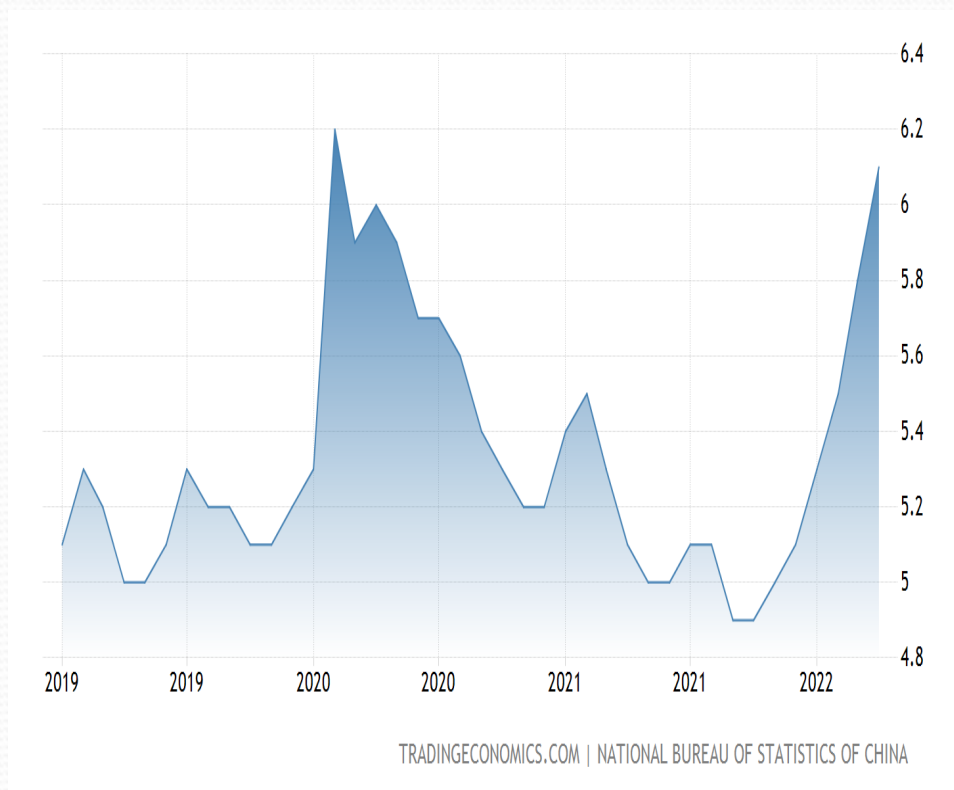


TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA

7. 中国の失業率はコロナ都市封鎖で再び増加

①4月の全国都市失業率(農民工は統計に含まれず)は前月より+0.3ポイント上昇して6.1%と政府目標の5.5%を上回った。コロナ感染再拡大の影響が見られる。

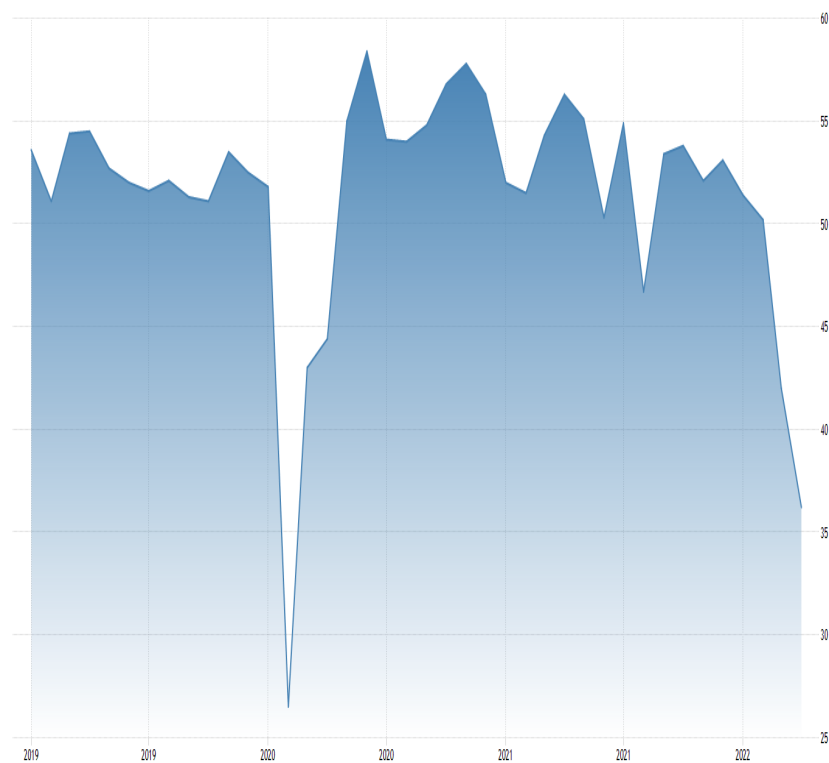
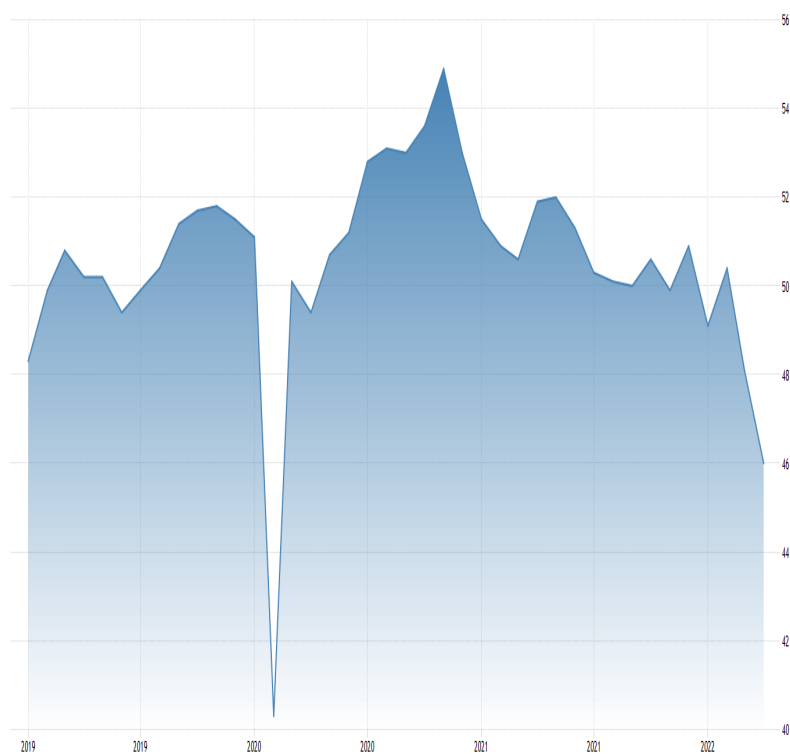
②31大都市圏の失業率は前月より0.7ポイント上昇して6.7%を記録した。



8. 中国PMI指数はコロナ都市封鎖で50を切る

①4月製造業PMIは46.0と前月より
▲2.1ポイントの低下で50を下回る

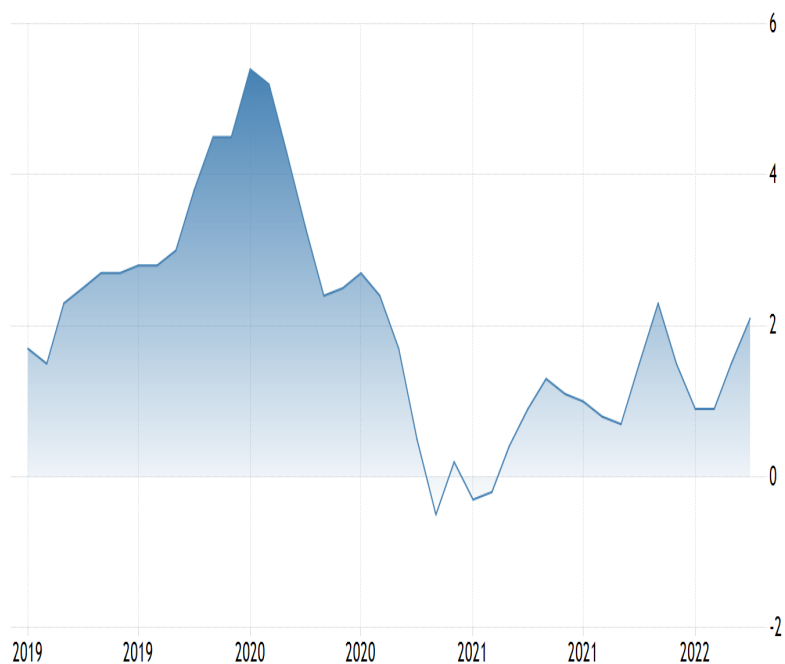
②4月サービス業PMIは36.2と前月より
▲5.8ポイントの大幅低下。



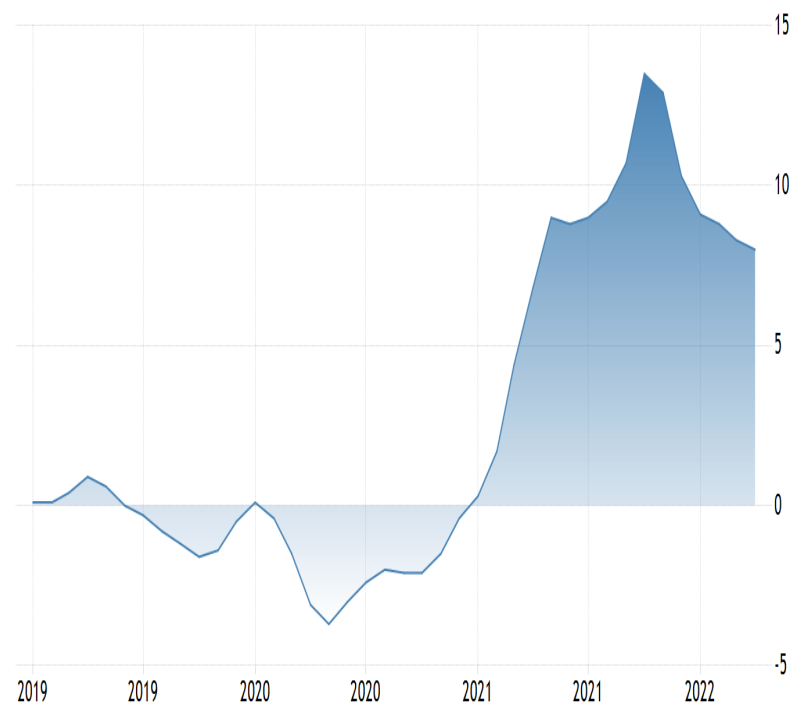
9. 中国のCPIは一進一退、PPIは減速傾向

①4月の消費者物価の前年比(左図)は+2.1%と前月の伸びを0.6ポイント上回る。前月比は+0.4%の伸び。

②4月の生産者物価の前年比(右図)は+8.0%と前月の伸びを▲0.3ポイント下回る。前月比は+0.6%。



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA



TRADINGECONOMICS.COM | NATIONAL BUREAU OF STATISTICS OF CHINA



IV 日本經濟

1. 日銀政策決定会合は指値オペを明文化

〈4月27～28日の日銀政策決定会合は以下の方針を決定した〉

1. 当面の金融政策運営について

(1) 長短金利操作

「短期金利に▲0.1%のマイナス金利を適用、長期金利は10年物国債金利がゼロ%程度で推移するよう上限を設けず長期国債の買入れを行う」との市場調節方針を実現するために、**10年物国債金利について0.25%の利回りでの指値オペを、明らかに応札が見込まれない場合を除き、毎営業日、実施すること**を決めた。→指値オペは市場機能を損なうリスクも。

(2) 長期国債以外の資産買入れ方針

①ETFとJ-REITの買入れはそれぞれ年間12兆円、1,800億円に相当する残高増加ペースを上限に、必要に応じて、買入れを行う。

②CP等、社債等については感染症拡大前と同程度のペースで買入れを行い、買入れ残高を感染症拡大前の水準(CP等:約2兆円、社債等:約3兆円)へと徐々に戻していく。

2. 経済・物価情勢の展望

①ウクライナ情勢のマイナス影響はあるが、コロナ供給制約が和らぐもとで景気が回復していき、潜在成長率を上回る成長を続けると見ている→楽観的。

②政策委員の見通し(中央値)

成長率は21年度2.1%→22年度2.9%→23年度1.9%
インフレ21年度0.1%→22年度1.9%→23年度1.1%



2. 1～3月期のGDPはオミクロン株まん延でマイナス成長

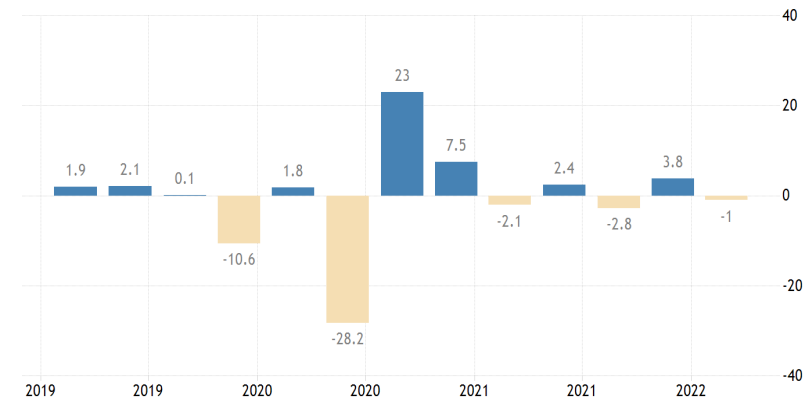
①1～3月期の実質GDPは前期比▲0.2%、前期比年率▲1.0%(右上図)のマイナス成長。オミクロン株の感染拡大でまん延防止等重点措置の発動が個人消費など需要を押し下げた。内需の寄与度は+0.2%、外需▲0.4%。実質GDPの前年同期比(右下図)は+0.2%と4期連続のプラス。

②名目GDPは前期比+0.1%、前期比年率+0.4%、前年比は▲0.2%。GDPデフレーターは前期比+0.4%、前年比は▲0.4%。

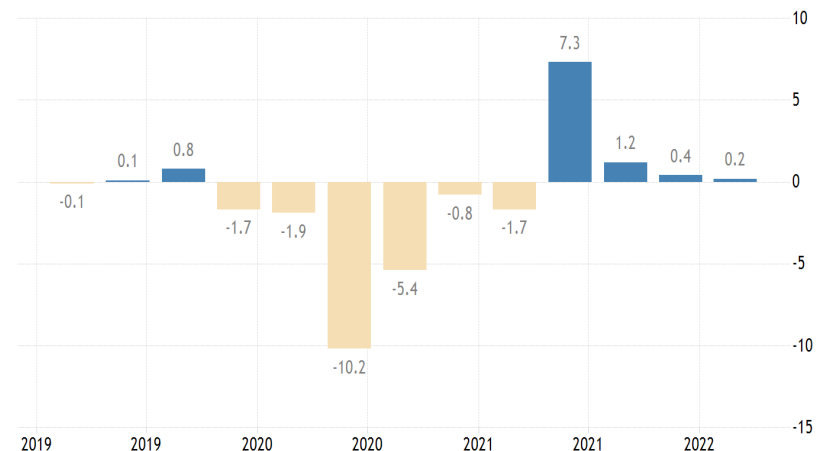
③需要項目別で民間最終消費支出は前期比▲0.0%(年率▲0.1%)、寄与度は▲0.0%。民間企業設備は前期比+0.5%(年率+1.9%)、寄与度は+0.1%。民間住宅は前期比▲1.1%(年率▲4.3%)、寄与度▲0.0%。民間在庫変動の寄与度+0.2%。

④政府最終消費は前期比+0.6%(年率+2.4%)、公的固定資本形成は前期比▲3.6%(年率▲13.6%)で、政府支出合計の寄与度は▲0.1%。

⑤輸出は前期比+1.1%(年率+4.7%)、輸入は前期比+3.4%(年率+14.1%)。



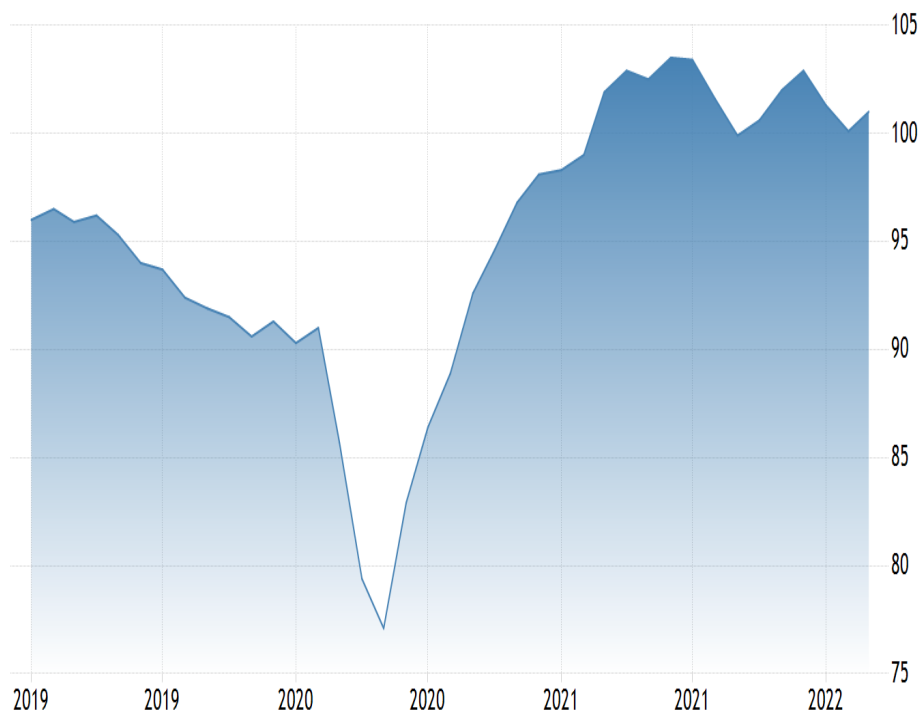
TRADINGECONOMICS.COM | CABINET OFFICE, JAPAN



TRADINGECONOMICS.COM | CABINET OFFICE, JAPAN

3. 景気動向指数は改善を示している

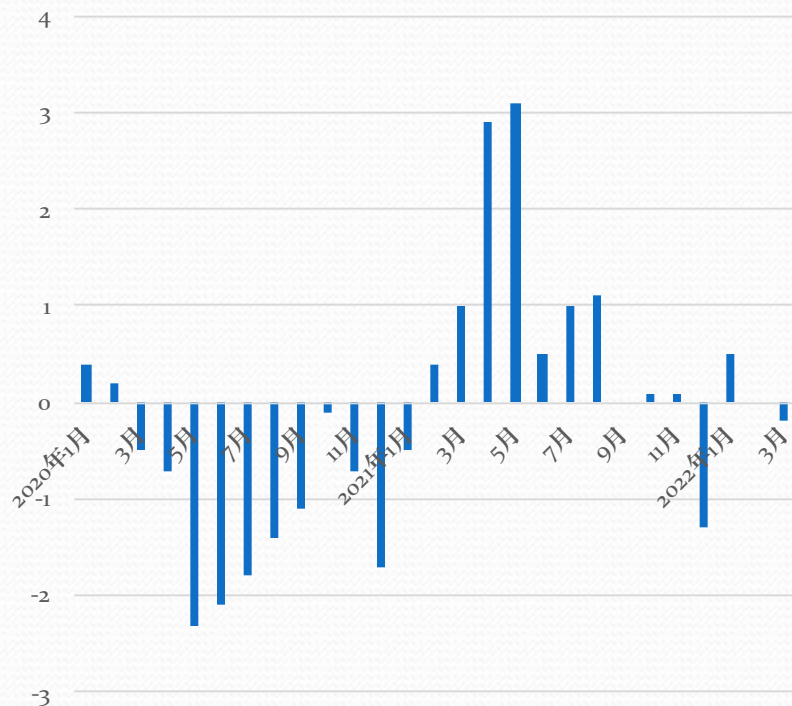
- ①3月の先行指数(右図)は101.0で、前月比+0.9ポイントと3ヶ月ぶりの上昇。
- ②一致指数は97.0で前月比+0.2ポイントと2ヶ月連続の上昇。
- ③遅行指数は95.7で前月比+0.6ポイントと2ヶ月連続の上昇。
- ④内閣府の基調判断(一致指数)は「足踏みを示している」から「改善を示している」に上方修正。



4. 実質賃金、実質消費も前年比マイナス

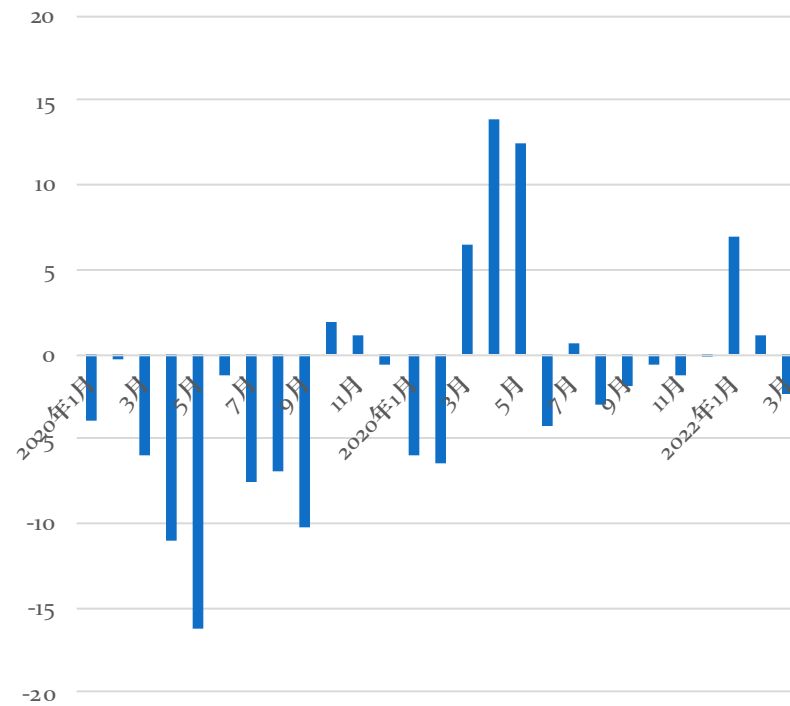
(1) 3月の現金給与総額の前年比+1.2%と前月と変わらず、所定内給与は+0.5%。所定外給与+2.5%、特別給与+10.7%。実質賃金の伸び(下図)は▲0.2%。

日本の実質賃金の伸び(前年比、%)



(2) 3月の家計消費は前年比で名目▲0.8%、実質は▲2.3%(下図)。住居▲19.3%、教育▲6.9%、家事・家事用品▲4.8%、光熱・水道+12.7%。

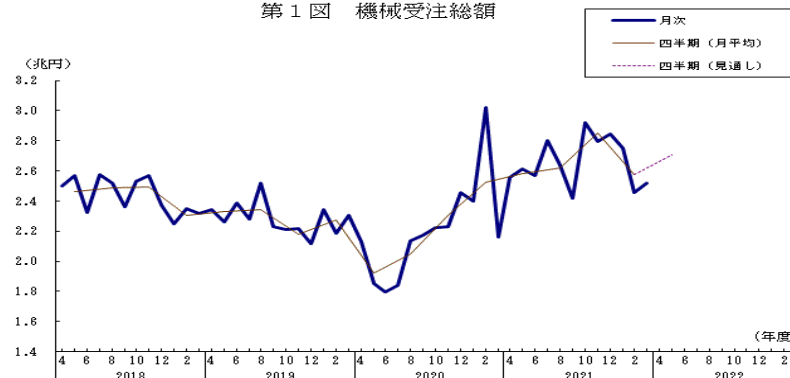
日本の実質家計消費(前年比、%)



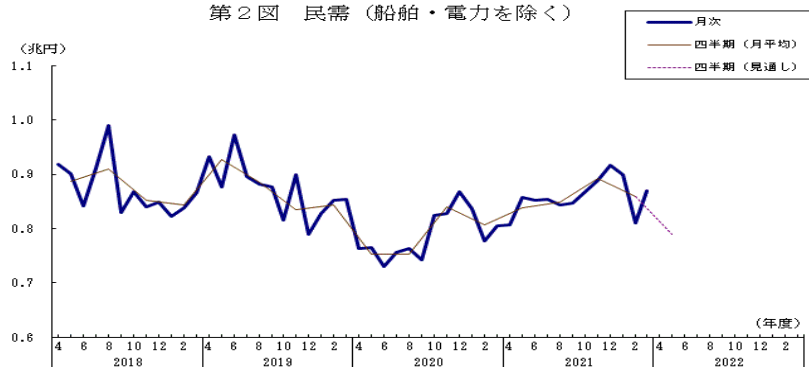
5. 機械受注(船舶・電力除く民需)は足踏み

- ①民間設備投資の先行指標である3月の機械受注「船舶・電力を除く民需」(右下図)は前月比は+7.1%。前年比+7.6%。
- ②製造業受注は前月比+7.1%、前年比は+28.8%。前月比で17業種中、非鉄金属、化学工業など9業種が増加。食品製造業、造船業など8業種が減少。
- ③非製造業受注(船舶・電力を除く)は前月比+11.0%、前年比▲5.6%。前月比で12業種中、増加したのは不動産業、リース業など10業種で、電力業など2業種が減少。
- ④内閣府の基調判断は「持ち直しの動きに足踏みが見られる」に据え置き。

第1図 機械受注総額



第2図 民需(船舶・電力を除く)



(備考)

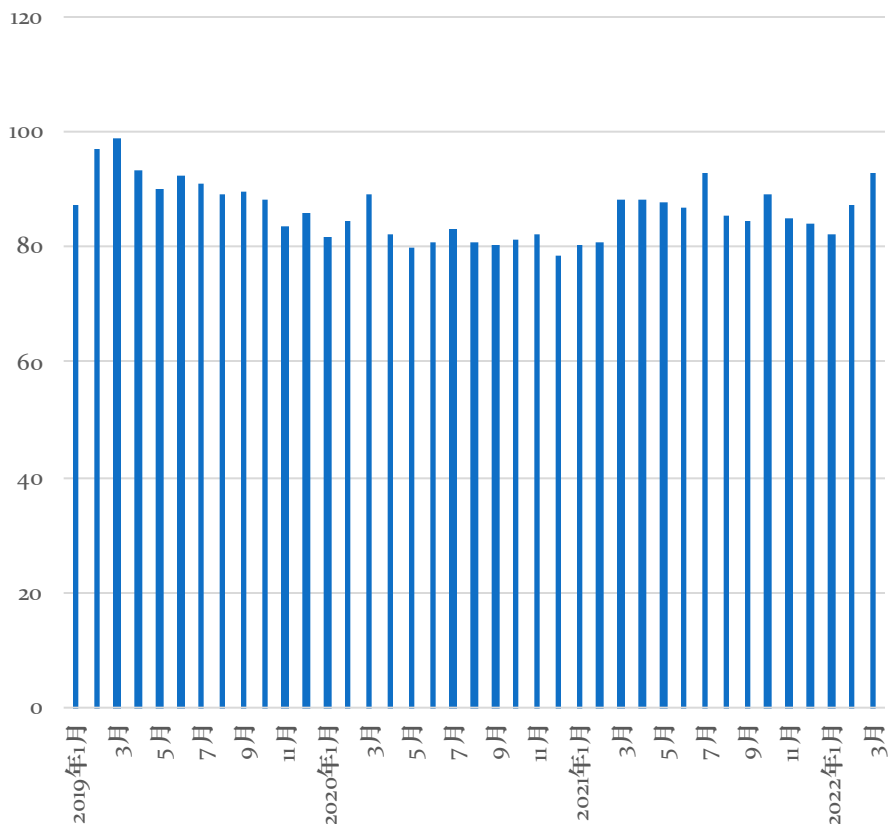
1. 四半期 (月平均) は季節調整済みの月平均値を期央月の位置に表示 (例えば7～9月の月平均値は8月の位置に表示)。
2. 「2022年4～6月 (見通し)」の計数は、「見通し調査 (2022年3月末時点)」の季節調整値を3で割った数値。

6. 住宅着工戸数は前年比プラスが続く

①3月の住宅着工戸数は76,120戸で前年比は+6.0%と13ヶ月連続の増加。季調済年率で92.7万戸(右図)、前月比は+6.3%の増加。

②持家は20,246戸、前年比は▲9.4%と4ヶ月連続の減少。貸家は32,305戸、前年比は+18.6%と13ヶ月連続の増加。分譲住宅は23,144戸、前年比は+6.0%で2ヶ月連続の上昇。分譲マンションは10,618戸、前年比は+2.2%で2ヶ月連続の上昇。分譲一戸建て住宅は12,439戸、前年比は+9.9%で10ヶ月連続の増加

日本の新設住宅着工戸数(季調済、万戸)

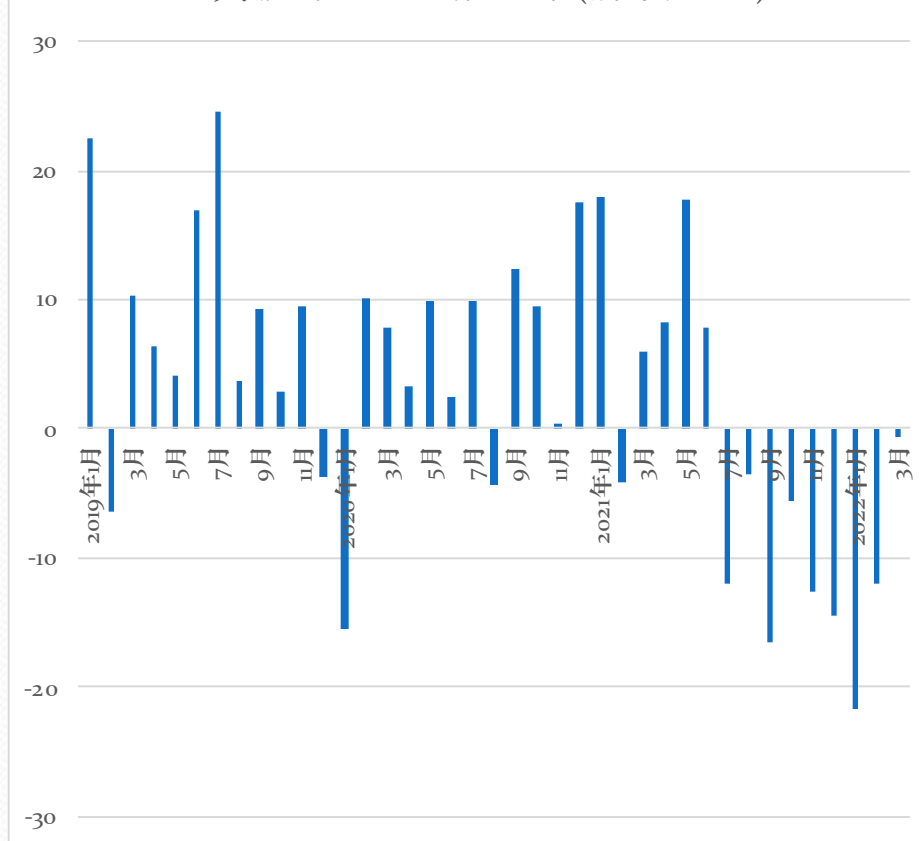


7. 公共工事受注は9ヶ月連続の減少

①3月の公共工事受注は前年比▲0.7%と9ヶ月連続の減少。(注:推計方法の変更により、右図の伸び率のデータは20年12月までと21年1月以降とは連続性がない)

②工事分類別では土木工事は▲3.1%、建築工事・建築設備工事+7.8%、機械装置等工事+8.5%。

公共機関からの受注工事(前年比、%)



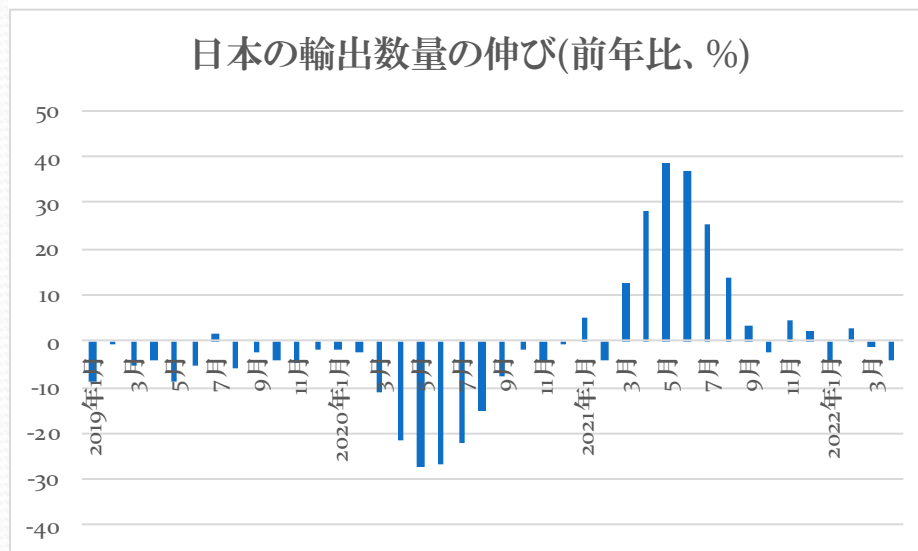
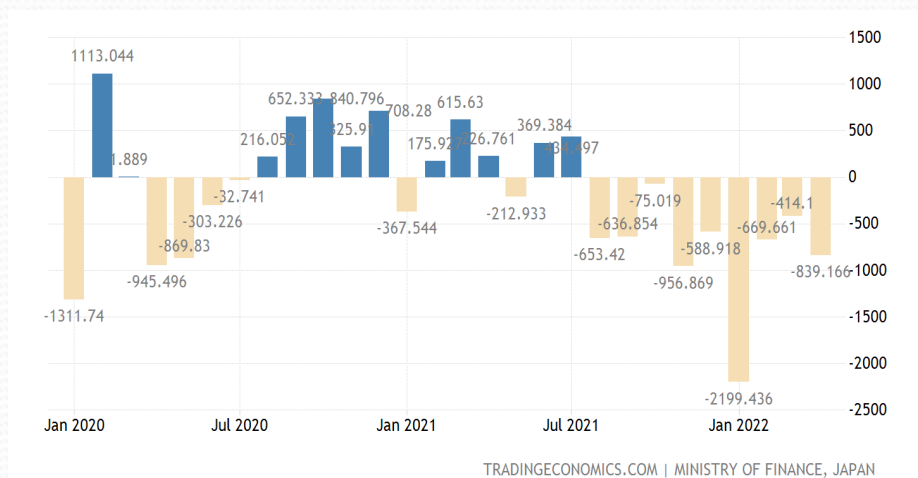
8. 原材料輸入増加で9ヶ月連続の貿易赤字

①4月の貿易収支は前年比▲1兆659億円悪化して▲8,392億円(右上図)の赤字に転換。輸出は前年比+12.5%、金額は8兆762億円。数量(右下図)前年比▲4.4%、価格前年比+17.7%。輸入は前年比+28.2%、金額は8兆9,154億円。数量の前年比▲9.0%、価格の前年比+40.9%。

②地域別輸出でアジア向けは+10.3%(うち中国▲5.9%、香港+15.0%、台湾+22.6%、韓国+15.8%)、米国+17.6%、西欧+19.8%、中東+19.7%

③商品別輸出は鉄鋼+37.1%、非鉄金属+26.4%、半導体等電子部品+9.6%、自動車+4.8%。

④商品別輸入は鉱物性燃料+108.9%(原油及び粗油+99.3%、石油製品+34.1%、LNG+151.6%、LPG+62.0%、石炭+198.6%)、医薬品+26.9%、非鉄金属鉱+26.8%、非鉄金属+16.9%、半導体等電子部品+35.6%。



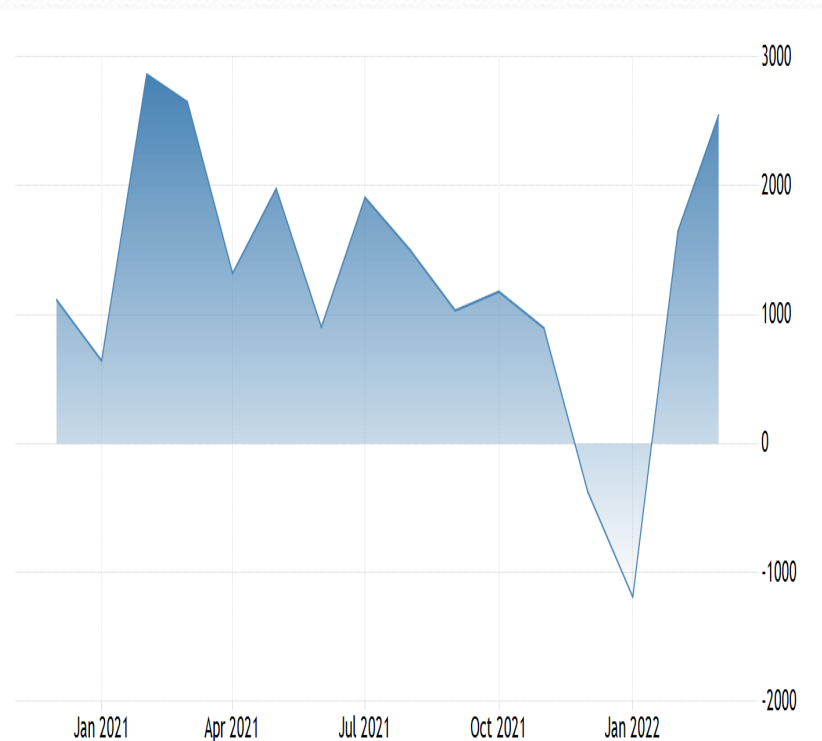
9. 貿易赤字を所得黒字が相殺して経常黒字拡大

①3月の経常収支(右図)は前年比+689億円黒字が拡大して、+2兆5,493億円の黒字。

②貿易収支は前年比▲1兆1,603億円悪化して▲1,661億円の赤字に転化。輸出は前年比+15.7%の8兆4,561億円、輸入は前年比+36.6%の8兆6,221億円。

③サービス収支は▲1,030億円赤字が増大して▲1,277億円の赤字。

④第一次所得収支は直接投資収益の黒字幅拡大により、1兆4,039億円黒字が拡大して+3兆2,603億円の黒字。第二次所得収支は▲717億円赤字が拡大して▲4,171億円の赤字



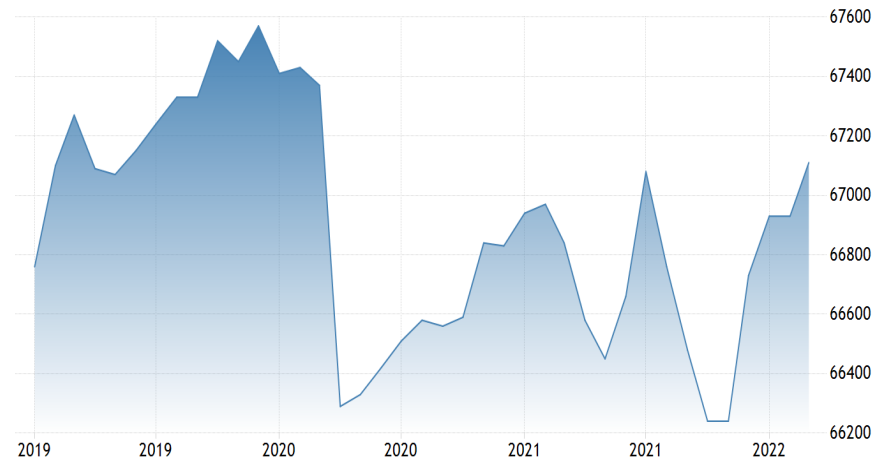
10. 日本の雇用指標は一進一退

①3月の就業者数は原系列で6,684万人、前年比▲11万人と6ヶ月連続の減少。季調済(右上図)は6,711万人で前月比+18万人の増加。原系列で雇用者数は6,025万人で前年比+14万人の増加。正規は3,599万人、前年比+7万人、非正規は2,078万人で前年比+14万人。自営業主・家族従業者は627万人で前年比▲24万人。

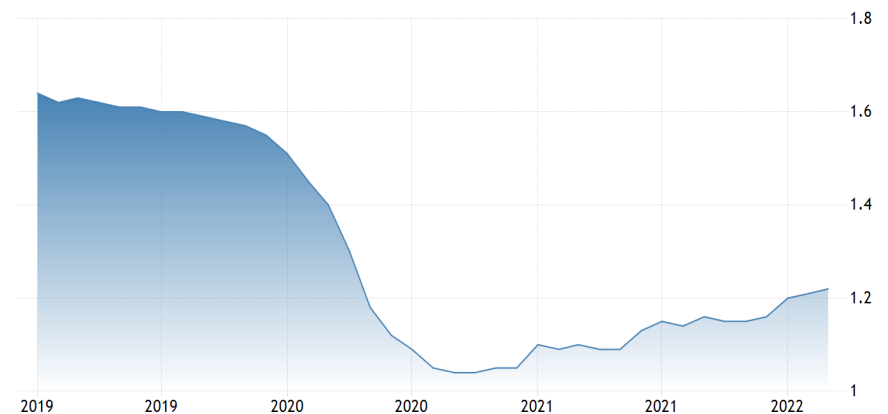
②産業別就業者の前年比では卸売業・小売業▲39万人、建設業▲10万人、生活関連サービス業・娯楽業▲10万人などが減少。製造業+14万人、情報通信業+10万人などが増加。

③完全失業者数180万人で前年比▲9万人。完全失業率(季調済、右上図)は2.6%と前月より▲0.1ポイント低下。

④有効求人倍率(右下図)は1.22倍で前月比+0.01ポイント上昇。



TRADINGECONOMICS.COM | STATISTICS BUREAU OF JAPAN



TRADINGECONOMICS.COM | MINISTRY OF HEALTH, LABOUR AND WELFARE, JAPAN

11. 鉱工業生産は一進一退の動きが続く

①3月の鉱工業生産指数(確報)は96.5で、前月比(右上図)は+0.3%と2ヶ月連続のプラス。前年比は▲1.7%(右下図)と2ヶ月ぶりの低下。

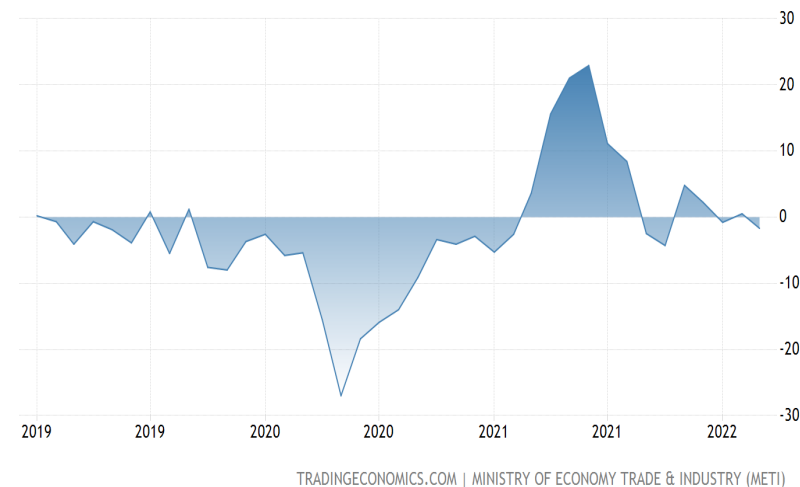
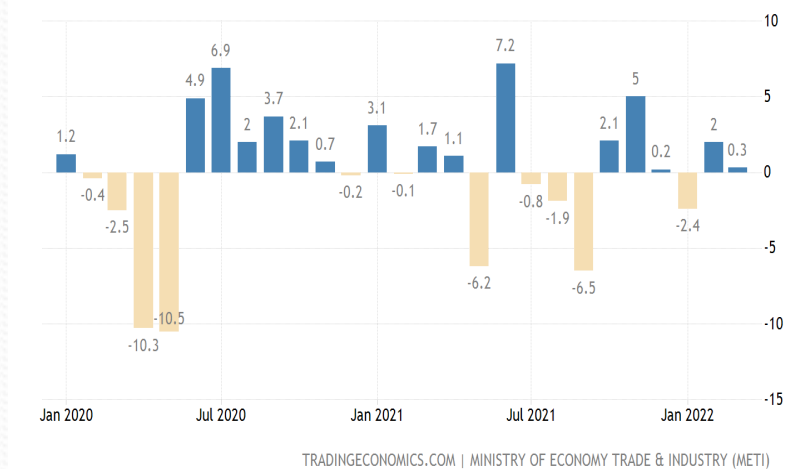
②業種別前月比では生産用機械工業+3.9%、化学工業(除く無機・有機化学工業)+3.3%、輸送機械工業(除く自動車工業)+8.5%などが上昇。自動車工業▲6.0%、食料品・たばこ工業▲2.4%、無機・有機化学工業▲4.5%などが低下。

③業種別前年比で電子部品・デバイス工業+11.7%、生産用機械工業+9.9%、汎用・業務用機械工業+7.6%などが上昇。電気・情報通信機械工業▲5.6%、自動車工業▲14.6%、無機・有機化学工業▲9.8%、などが低下。

④4月の製造工業生産予測指数は前月比+3.6%の上昇、4月は+9.6%の上昇を予想。

⑤設備投資の先行指標である資本財(輸送機械を除く)出荷は前月比+1.7%、前年比+5.5%。

⑥経産省の基調判断は「生産は持ち直しの動きがみられる」に据え置き。



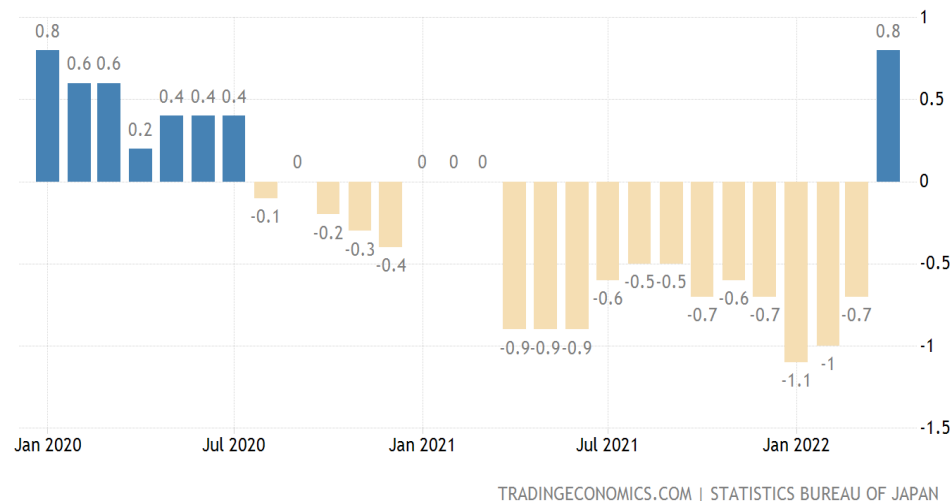
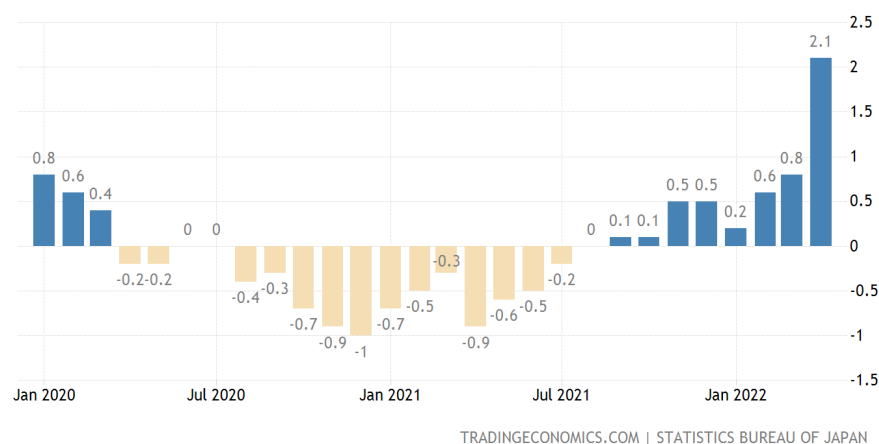
12. CPIは携帯料金値下げ一巡で伸びが高まる

①4月のコア消費者物価(生鮮食品を除く総合)の前年比(右上図)は+2.1%前月より+1.3ポイント伸びが高まる。前年比は8ヶ月連続のプラスに。前月比は+0.2%。携帯電話料金値下げがほぼ一巡したことが影響。

②生鮮食品及びエネルギーを除く総合(コアコア)の前年比(右下図)は+0.8%と21ヶ月ぶりにマイナスから抜け出す。前月比は+0.2%。

③消費者物価総合の前年比は+2.5%、前月比は+0.4%。エネルギーの前年比は+19.1%、寄与度は+1.38%。食料の前年比は+4.0%で寄与度は+1.04%。

④項目別前年比で上昇したのは食用油+36.5%、電気代+21.0%、都市ガス代+23.7%、ガソリン+15.7%、灯油+26.1%、宿泊料+6.1%。下落は通信料(携帯)▲22.5%など。





V マーケット動向

1. ドル円は日米金利差拡大で130円を記録



2. ユーロ・ドルはウクライナ情勢でユーロ安



3. 人民元はコロナ都市封鎖で急落



4. NYダウはFed引き締め強化を嫌気して下落



5. 日経平均はNYダウ下落と円安で弱含み



6. 独株価 (DAX) はウクライナ戦争の影響で弱含み



7. 上海株価はロックダウン長期化で弱い



8. 米長期金利は利上げ加速で3%に上昇



9. 日本の長期金利は指値オペで上昇抑制



10. 独長期金利はインフレ加速で1%に上昇



11. 中国の長期金利は横ばい続く



12. 原油価格 (WTI) はウクライナ戦争で高値圏の推移



13. 金価格はFed引き締めで頭打ち





完